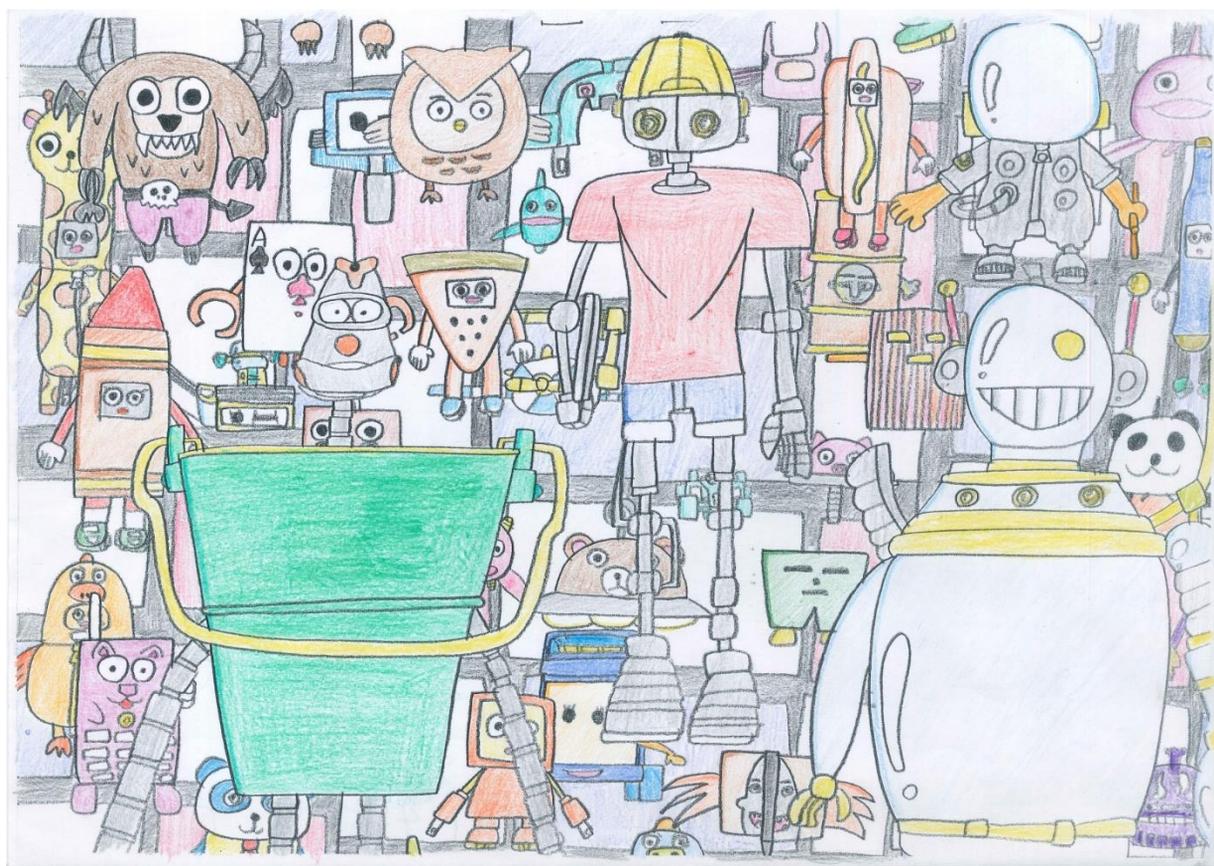


令和4年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業  
地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進

# 大館市 障害者の生涯学習推進事業 事業報告書



令和5年3月  
秋田県大館市教育委員会

《表紙のイラストについて》

製作者：仲澤 嶺也 氏

市内の就労支援施設に通所している障がいのある方  
描く紙の大きさはA4と決まっており、鉛筆のみで、イラスト本や頭の中にある  
イメージを一気に描きあげます。

色付けされるのを嫌っていましたが、今年度、市内子ども園や放課後児童クラブの子どもたち、中学生たちが色付けしてくれたのを見て、自分の作品がみんなに認知され、広がりを持つことができたことをご家族と一緒に大変喜んでいらっしゃいます。

今年度は、ご家族の強い意向から始まり、県内各地でイラスト展を開催する活動を始めました。

# 障がい者の笑顔に出会って

大館市生涯学習連携協議会 会長  
秋田県教育庁北教育事務所  
主任社会教育主事

櫻庭直

大館市では、第7次社会教育中期計画（令和2年度～5年度）の重点施策に障害者の生涯学習の推進及び共生社会の学習の充実を掲げています。また、令和2年度には先導的共生社会ホストタウンの認定を受け、共生社会の実現に向けた全庁横断的な取組を行っています。それを受け、学校卒業後における障がい者の生涯学習の機会の充実を図るため、大館市生涯学習連携協議会を設置しています。

私は、本協議会の会長を今年度から拝命いたしました。教育事務所において、生涯学習・社会教育を主な業務としている私ですが、障がい者の生涯学習との関わりはこれまで少なかったため、勉強しながらの一年でした。そんな私ですが、障がい者の生涯学習に関する忘れることのできないエピソードがあります。

今は亡き私の祖父は、30歳代後半に糖尿病を発症し、それが原因で50歳を目前に失明してしまいました。元々、明るく元気な祖父でしたが、失明して障がい者となってからは外に出ることを嫌い、家の中で寂しく過ごす毎日でした。正直、家族にとってもつらい毎日でした。そんな祖父が失明してから5年ほど経ったある日、「映画を見に行きたい」と、突然話をしたのです。家族はびっくりしました。「目の見えない祖父が映画なんて、、、」家族は本当に心配しました。楽しむことができず、自分自身に失望して帰ってくるのでは、とっていました。

しかし、祖父は笑顔いっぱいに戻ってきたのです。その後、映画鑑賞が生きがいとなった祖父には笑顔が増え、それと共に、家族にも笑顔が増えたことを覚えています。

今になって思うと、祖父にとっての映画鑑賞が障がい者の生涯学習であったのではないのでしょうか。祖父が見せてくれた「笑顔」を、本事業において多くの障がい者から引き出すことができるか、それがこの一年の目標でした。事務局を担った教育委員会生涯学習課、そして、委員である多様な関係機関・団体等の皆様も同様の目標をもっていたように感じます。年3回実施した本協議会では、委員の皆様から貴重な御意見をたくさんいただき、それを基に予定時間を過ぎてまで協議しました。コロナ禍でも学びを止めないためにできることは何か、公民館を中心とした社会教育施設ができることは何か、どのような講座を障がい者は求めているのか、協議は多岐にわたりました。その協議の一つ一つが、障がい者の笑顔につながるものでした。

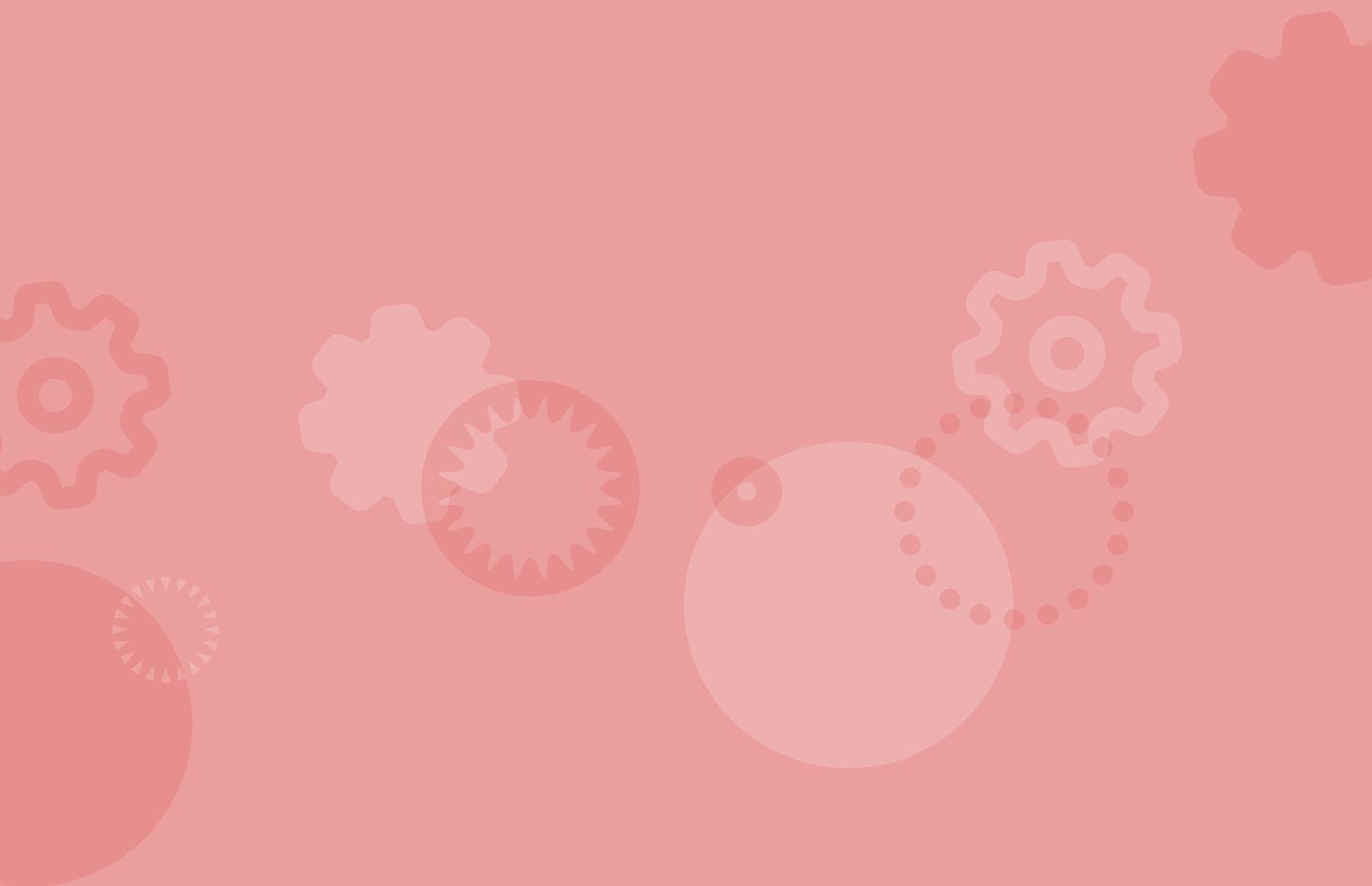
はじめは恐る恐る講座会場に入ってくる障がい者の方々、その方々が講座を通して帰りには笑顔いっぱいに戻っていく。そのような笑顔にたくさん出会うことができました。おそらく、障がい者の方々は各家庭に戻ってから、ご家族に講座の様子を笑顔で話し、それを聞いたご家族も笑顔いっぱいになったのではないのでしょうか。そんな「笑顔」に出会ったり想像したりすると、私までも笑顔になりました。

障がい者の生涯学習は、社会一般には認知度が低い学習であるため、解決しなければいけない課題もまだまだ多いと感じます。しかし、必ず必要とされている学習です。本市の事業・講座がより充実するとともに、先進事例として他市町村、関係機関等に周知・啓発されることで、これまで以上に多くの障がい者の、多くの笑顔が生まれることを期待しています。

# 目次

「障がい者の笑顔に出会って」	1
大館市生涯学習連携協議会 会長 櫻庭 直 (秋田県教育庁北教育事務所 主任社会教育主事)	
目次	2
事業計画・連携協議会	3
事業概要・事業内容	4
(1) 生涯学習プログラムの開発・実施	
(2) コーディネーターの活動及びボランティアの育成	
(3) 見込まれる成果・効果	
事業日程	7
大館市「障害者の生涯学習」推進事業(ポンチ絵) 大館市生涯学習連携協議会 第1回～第3回会議録	
各講座の報告・成果と課題・来年度事業(案)	21
「やっぱり、2の次は3ですね」 コーディネーター 佐藤 正好 障害者の生涯学習事業実績 講座実施報告書 成果・課題 来年度事業(案)	
資料	43
連携協議会 提供資料 障害のある方がより講座に参加するために 地域活度支援センター利用状況(4～9月)福祉課 本事業の対象者は何人いるのか ボランティア養成講座(1)～(3)資料 ボランティア養成講座(3)アンケート集計結果 先導的共生社会ホストタウン(図) 大館市社会教育推進計画(抜粋) 連携協議会委員名簿 連携協議会設置要綱	
資料	68

# 事業計画 連携協議会



# 地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進

事業名 : 大館市「障害者の生涯学習」推進事業

## 《事業計画》

### ◇目的

障害者とその家族に、社会教育施設を活用しながら、自らが生涯学習活動や余暇の充実を図ることができることを知ってもらうために、公民館等を活用した講座を開催する。

また、市民（支援者）には、ボランティア養成講座を開催し、心のバリアフリーや合理的配慮を学び、実践する機会を提供する。

### ◇事業概要

- 年3回の連携協議会開催
- 障害者のニーズ調査と分析
  - ・アンケート調査票を用いた聞き取りによる把握
  - ・余暇として活動の場の把握
  - ・オンライン配信の実施の可能性についての調査
- 支援関係者を対象とした事前研修会の開催
  - ・先進地視察による障害者の生涯学習の理解者の育成
  - ・障害者の活動に保護者の理解を得て一緒に活動してもらう
- 社会教育施設における講座等の計画と実践
  - ・公民館等を会場にした講座の開催（月1回目標）
- 市民への情報発信
  - ・随時、チラシの配布とネットによる情報発信
- 持続可能な活動の実践研究
  - ・継続希望する講座を持続可能にするための研究

### ◇事業内容

#### （1）生涯学習プログラムの開発・実施

##### ○生涯学習連携協議会の開催 年3回

7月 令和3年度の活動報告

令和4年度の事業計画

11月 講座開催状況の報告

ボランティア養成講座（1）の報告

2月 4年度の活動報告

事業報告書作成について

翌年度事業案

##### ○障害者のニーズ調査と分析

講座参加者への聞き取り

聞き取りから得られた情報の分析

次年度の開催講座企画立案への取り込み及び運営参加方法への検討

##### ○先進地視察

連携協議会委員及びボランティア養成講座参加者を対象とした、秋田県

パイロット事業への視察

- 社会教育施設を会場にした講座開催
  - 8月 ボランティア養成講座（1）（アーカイブ配信）
  - 9月 木のリース作り講座
  - 10月 一花一葉講座（アーカイブ配信）  
ボッチャ交流大会（比内公民館主催）
  - 11月 おうちパン講座  
ボランティア養成講座（2）本講座からの申込なしにつき中止  
（第3回ハチ公カップ参加者への体験）
  - 12月 比内支援学校青年学級
  - 1月 ボランティア養成講座（3）  
初心者向けパソコン体験講座  
今年も音楽で遊ぼう

◇事業連携

- 福祉課障害福祉事業との連携（余暇の充実）
- 障害者スポーツ事業との連携（ボッチャなど）
- 大館学び大学（市社会人の学び直し事業）との連携

◇普及活動

- 事業関係者への事業報告書の配布
- 活動映像の制作及び情報発信
- 社会教育施設における積極的な障害者事業への取り組み
- 広報、地元紙を活用した市民への広報活動

(2) コーディネーターの活動及びボランティアの育成

○スケジュール

6月	事業実施に向けた打ち合わせ（メール）
7月	第1回連携協議会参加
8月	各講座へのアドバイス
9月	
10月	
11月	第2回連携協議会参加
12月	
1月	実績報告書の作成協力
2月	第3回連携協議会参加
3月	

- ◇ボランティアの育成・活用等方策
  - 複数回のボランティア養成講座開催による育成
    - 対象：市内3高校生徒、大学生
    - 内容：座学による講座及び障害者と関わる体験講座
    - 講座開催における支援者としてボランティア登録を行う。

(3) 本事業実施により得られると見込まれる成果・効果

◇アウトプット

- ★連携協議会協力団体の増加による連携の歯車の拡大
- ★余暇としての活動内容の把握による講座内容への反映
- ★感染拡大局面におけるオンライン、アーカイブ配信活用の成果検証
- ★先進地視察による理解者の育成
- ★講座参加者との交流による次年度講座内容の方向性への反映

◇アウトカム（中長期的）

- ★障害者が継続的に必要とする講座の把握
- ★継続的に実施できる社会教育施設（5施設）

◇本事業における得られた成果の活用策又は見通し

- ★社会教育施設での自主事業として継続的な実施
- ★社会教育施設でのサークル活動へつなげる
- ★障害者が合理的配慮を受けながら、学び続けられる共生社会の構築につなげる。

## 《事業日程》

	連携協議会・成果報告等	事業
6月		
7月	第1回連携協議会(7/5)	
8月		ボランティア養成講座(1) 8/31~9/20(アーカイブ配信)
9月		SDGs木のリース作り講座(9/4)
10月		一花一葉講座 10/1~10/14(アーカイブ配信) ポッチャ交流大会(10/30) (公民館連携)
11月	第2回連携協議会(11/9)	おうちパン講座(11/12)
12月		比内支援学校青年学級(12/4)
1月		ボランティア養成講座(3)(1/7) 初心者向けパソコン体験講座(1/14) 今年も音楽で遊ぼう(1/22)
2月	第3回連携協議会(2/13)	
3月	事業報告書発行	

※会場は社会教育施設(1月初心者向けパソコン講座以外)

※ボランティア養成講座(2)は、本事業を通じた障害者の参加がなかったため、中止

## 背景

### ◆第7次大館市社会教育中期計画（令和2年度～令和5年度）重点施策

- 障害者のための生涯学習の推進 ● 共生社会の学習の充実
- ◆ 先導的共生社会ホストタウンの認定（令和2年12月25日認定）
- 各種計画との連携によるバリアフリーーまちづくり など

## 目的

- 学校卒業後における障害者の生涯学習機会の拡大促進
- 地域連携による持続可能な学びの支援に関する実践研究

## 実施体制



〈 連携と協働 〉

## 令和4年度 事業概要

- 連携協議会の開催（年3回）
- 障害者のニーズ調査と分析
- 支援関係者を対象とした事前研修会の開催
- 社会教育施設における講座等の計画と実施
- 市民への情報提供 ● 持続可能な活動の実践研究



◎大館市



## 今後の方向性（令和5年度以降）

- 社会教育施設における講座の実施
- 参加者へのアンケート調査の実施
- ボランティア養成講座の実施 ● 市民への情報提供の継続

○4年度 生涯学習連携協議会開催実績

回数	開催日時	出席数	協議案件
1	令和4年 7月5日(火)	20人	1. 委嘱状交付 2. 教育長あいさつ 3. 委員紹介 4. 会長及び副会長の互選について 5. 協議 (1) 令和4年度事業計画について
2	令和4年 11月9日(水)	18人	1. 実施済み講座の報告 (1) ボランティア養成講座(1)の報告 生涯学習講座実施状況報告 (2) 比内支援学校と比内公民館との連携報告 ボッチャ交流会報告 2. 今後の活動について
3	令和5年 2月13日(月)	15人	1. 講座の開催実績の報告 2. 来年度の事業実施案について



# 第1回 大館市生涯学習連携協議会

令和4年7月5日（火） 午前10時00分～

大館市立中央公民館 第1・2研修室

## 次 第

1. 委嘱状交付
2. 教育長あいさつ
3. 委員紹介
4. 会長及び副会長の互選について
5. 協 議  
    (1) 令和4年度事業計画について
6. その他

## 資料

1. 令和4年度「障害者のための生涯学習」推進事業（ポンチ絵）
2. 令和4年度事業計画について
3. 大館市先導的共生社会ホストタウン関連事業（スポーツ振興課）
4. 令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」  
公表予定資料（文部科学省）
5. 「障害者の生涯学習の推進を担う人材育成の在り方検討会の設置」及び議論の  
まとめ（文部科学省）
6. 大館市生涯学習連携協議会設置要綱

## 第1回連携協議会 会議録

1. 委嘱状交付
2. 高橋教育長あいさつ
3. 委員紹介
4. 会長及び副会長の互選  
会長：秋田県教育庁北教育事務所 主任社会教育主事 櫻庭 直氏  
副会長：大館市社会福祉協議会 副会長 仲谷 正一氏
5. 〈協議〉
  - (1) 事業説明「令和4年度事業計画について」
    - ・資料より説明
    - ・各施設における取り組み紹介  
〈栗盛記念図書館〉 〈大館圏域ふくし会〉 〈市スポーツ振興課〉  
〈大館少年自然の家〉

### ○協議内容○

- 補助事業であるが、通年事業としてやっていくべきものかと思うので、継続していける方向を考えるといいかと思う。  
⇒ 連携すると年度初めからできるように思うので、来年度へ向けて検討する。
- 交通手段の問題がある。この場での発言が正しいのかは不明だが、例えば車イスの方が乗れるバスがない。そういうこともあることを頭に入れておくべきではないかと思う。民間にもなく、当方の車を出したこともある。
- ボランティア養成講座（サポーター養成講座か？）は以前参加したが、目的がわからない。受講後どうすればいいかわからないとの意見もあったが、もっとやるべき講座があるのでないか。もっと根本的な問題がある。「障がいとは何だろう」とは深い問題。秋田看護福祉大学にいる女性講師がいるが、このような肝心の会議に全然出てくることがないのが非常に残念。働きかけてはどうか。  
⇒ 秋田看護福祉大学の講師については、大学へ働きかけていきたい。  
※すでに同大学は退職され、県外の大学勤務であることが判明。
- こういった事業で社会参加の機会が増えたが、一方で重度の障がいがある方が参加する機会がない。ネット環境など課題はあるが、ズーム開催等自宅でできる開催方法も検討してほしい。10月16日に4年ぶりに「大館市ともに障がいを歩む集い」を開催して、障がいを理解する機会を設ける。この事業に携わる中で心に残った言葉を共有したい。  
「彼は車イスだから2階へ行けない。彼はエレベーターがないから2階へ行けない。」要因が自分か、環境かになるのだが、携わる者として注力していきたい。今はスマホで情報を得る障がいがある方も多いので、検討をお願いします。  
⇒ 検討していきたい。

### 〈コーディネーターより〉

障がいのある方がより講座に参加するためには、委員のほかに中間者（直接に障がい者に関わっている方）に直接講座を理解していないと伝わらないため、その中間者の方々の講座への参加を評価を加えて促してほしい。

## 第2回 大館市生涯学習連携協議会

令和4年11月9日（水） 午前10時00分～

中央公民館 第1・2研修室

### 次 第

1. 会長あいさつ
2. 報告
  - (1) 障害者の生涯学習講座の進捗状況について
  - (2) 今後の講座の実施について
3. その他

#### 資料

1. 令和4年度 障害者のための生涯学習講座事業日程  
(10月31日現在)
2. 令和4年度 障害者の生涯学習事業  
報告 生涯学習講座の進捗について  
ボランティア養成講座（1）  
生涯学習講座  
ボッチャ交流大会（比内公民館）
3. 比内公民館だより（10月号）
4. 比内支援学校と比内公民館の取り組み紹介新聞記事
5. 地域活動支援センター利用状況（R4.4～9月）（福祉課提供資料）

## 第2回連携協議会 会議録

1. 実施済み講座の報告
  - ・資料により説明
2. 今後の活動について
  - ・資料により説明
  - 各委員や関連施設にチラシを配布済み
  - 参加者への声かけを依頼



### 1. 報告（要点）

- (1) 障害者の生涯学習講座の進捗状況について
  - 資料により説明

#### ○ボランティア養成講座（1）～アーカイブ配信～ 受講後、レポート提出

##### 〈感想レポートより〉

- ・障がいへの配慮には、個人モデルと社会モデルの2つがあり、バリアには、事物のバリア、制度のバリア、慣行のバリア、観念のバリアの4つがあることがわかった。
- ・平等と公平の違いに気づいた。  
平等＝すべての人に同じ配慮をすること  
公平＝それぞれの人にあった配慮をすること
- ・決めつけたり、奉仕したりするのではなく、対等な関係で、苦手分野はカバーしあうことが大事。
- ・2つの講演に共通して、本や動画で得た知識だけでなく、「個人として向き合う」のが大事だと気づいた。
- ・雇用の問題を含め、障がいの有無、文化や価値観の違いに関係なく、生きやすい社会を作るには、「理解する気持ち」がまずは大切だと分かった。

#### ○6月29日（水）に開催された県のコンソーシアムでのグループ協議 ゆり支援学校の高橋校長「学校へ来てもらい、在学中からの関わりが必要」 これを受けて、周知先に比内支援学校高等部を追加 寄宿生がアーカイブ配信「一花一葉講座」に指導員の先生と一緒に参加

#### ○比内支援学校と比内公民館との連携

- ①比内支援学校高等部生徒の就職に向けた校外研修を活用した連携
  - ・ハチ公カフェの開催
  - ・作業学習の成果発表と路線バス乗車体験
- ②10月30日ポッチャ交流大会  
比内地区分館対抗を対象を市内全体へ拡大（誰でも参加）  
青年学級と比内支援学校の先生の個人参加あり

## ○協議内容○

- プログラムが充実してきており、ボランティア養成講座がアーカイブ配信により情報共有された。市内の障がい者に関連した情報を一括して見られるプラットフォームがあるといい。一か所にまとめてSNSを使うと課題である周知の徹底ができる。
  - ⇒（会長）プラットフォームは周知を含めるとやってもいいのかなと思った。ボランティア養成講座の対象は？
  - ⇒（事務局）ボランティア養成講座の対象は大学生、高校生に周知した。
  
- ボランティア養成講座への取り組みについて
  - （鳳鳴）ボランティア活動は主に2年生を中心に行っている。障がい者対象のボランティア養成講座や理解への取り組みは特に行っていない。
  - （桂桜）JRCの担当を通して募集。ほかに、生活科学科の福祉コース生徒と比内支援学校高等部生徒との交流事業を毎年実施。今年度は10月28日に開催。高等部生徒が来校して実施。（ゲーム交流）
  - （国際情報）ボランティア情報の案内は、基本的にインターアクト部を中心としながら、全校へ周知。ボランティアは個々の活動に任せている。校内クラス対応で、負けたクラスどおしのボッチャ体験を行った。そういう交流ができるかなと思う。
  
- 表記について
  - ・「障害者」を「障がい者」表記にお願いしたい。表記だけでなく、考えるべき問題と思う。
  - ・講座はボッチャ以外はこれまでと同じ内容ではないか。ニーズを知るためには手探りでやっていくといいかなと思う。
  - ・ニーズの把握：御成座とのタイアップで障がい者対象の映画上映。カラオケ大会、体を動かしたり、声を出す講座など。精神の方への配慮は必要。アンケートを直接とるなど見える化の取り組みを。
  - ⇒（事務局）出向いていき、聞き取る時間が取れるのであれば考えたい。
  
- 内容を何回も説明した。やっとやってみたいと発言した。やってみてびっくりした。自分の作品が掲載されていた。段階を分けてやってみること。障がいのある方は1つ進むのが容易でなく、何度も働きかけてやっと結びつく。今後お願いしたい。
  
- 生活介護の施設では移動に困難がある。半分以上は意思表示できない。1か所に集まるのではなく、来てもらえると助かる。皆で単純に体を動かす活動を喜ぶ。
  - ⇒（会長）少年自然の家からは、是非利用をお願いしたいとのこと。SDGsの観点からも活動していきたいとのこと。
  
- ボッチャ交流大会への参加希望があったが、チーム参加だと思いやめた模様
  - ⇒（会長）始めは壁がある。やっていると取り払われていく。開催方法を今後事務局へ働きかけていく。
  - ⇒（スポーツコミッション）重く受け止めたい。今年は無理だが、交流戦では個人参加できる枠を作ると参加機会が増える。取り組んでいきたい。

- みんなでスポーツの会を11月1日に白沢通園センターと矢立育成園利用者30人くらいで小規模開催し大変好評だった。  
ニーズ把握はアンケートは形式的になり、本当のニーズは聞き出せないと思う。皆さんいろんな活動をしている。教えると何でもできるようになる。障がいがあるからできないでなく、少人数でいいから、一般のサークル活動のようなプログラムを取り入れて、引き出しを多く増やしていきたい。これをやるでなく、利用者が参加したいものをやっていくことが必要。

#### 〈各団体の取り組み紹介〉

福祉課（圏域ふくし会への委託事業）

- ・ 地域活動支援センターの利用状況の説明（資料）

スポーツ振興課

- ・ 10月16日開催「スポーツを通じた大館市のレガシー発見」及び「アフターメダルプロジェクト」を紹介

スポーツ協会

- ・ 講座開催への提案  
講座のシリーズ化。各講座を積み上げ、最後に交流や発表の機会創出  
ポッチャを活用した交流拡大等

栗盛記念図書館

- ・ 障がい者対象事業はコロナもありできていない。来年度は現事業の対象範囲を広げるなど、工夫していきたい。

身体障害者連合会

- ・ 足がとれないと断念する人がいる。駐車場とトイレの課題がクリアできると参加できる。仲間どうして送迎するなど、ポッチャ交流会にもかなりの人に参加してもらえた。

とっと工房前田野事業所

- ・ 利用者のイラストの新聞記事から、保護者がイラストに色付けしてくれる人を探しており、そこからネットワーク作りをしていきたいと考えている。

#### 〈比内支援学校より〉

- ・ 多様なプログラムが増えてうれしい。参加者は面白かった、楽しかったとの感想だと思う。今後の課題は周知と参加。講座もだが、友達と一緒に活動や仲間を作ることを喜び、それが一番楽しいと思っている。それを生涯学習を通じて広げていけるといい。在学中から生涯学習イベント等周知したり青年学級とも連携させながら参加を促し、仲間作りができればいい。
- ・ 学校の取り組み：交流を大事にしており、外に出ていく活動を取り入れている。障がいがある子どもにとっての意義やメリットのほか、一緒に交流する地域や健常者にとっての意義やメリット、双方を考えていくことをしたい。ものづくり講座で地域の方との交流も行った。
- ・ 学校後援会活動：障がいを知る機会を持つと、後援会主催の障がい理解の講座を開催。

〈佐藤コーディネーターより〉

- ①昨年度の課題であった情報提供は前進している。  
講座情報が広報へ掲載  
市ホームページでも検索可能となった
- ②ニーズ把握への意見は今後の取り組みへ活かす  
委員には、講座への見学や参加をお願いしたい。行ってみないとわからない、  
伝わらないことがある。（参加者名簿を供覧）
- ③この事業をした前課長から進捗への感想や意見がほしい。

〈一関〉

- ・現場に戻り半年が経過した。大切なのは、「顔の見える活動」と思った。誰がこの事業をしているのか。そういった情報の点と点をつなぐこと、誰がこの活動をしているのかを協議会の委員が情報共有することが、来年度事業の更なる躍進につながるのでは思う。

### 3. その他

〈事務局〉第3回会議日程及び予定内容を報告

## 第3回大館市生涯学習連携協議会

令和5年2月13日（月）午前10時00分～  
中央公民館 第1・2研修室

### 次 第

- 1 会長あいさつ
- 2 報告
  - (1) 障がい者の生涯学習講座の実績について
  - (2) 実績報告書の作成について
  - (3) 来年度事業（案）について
- 3 その他

### 資料

- 1 障がい者の生涯学習講座の実績について
- 2 実績報告書の作成について
- 3 来年度の事業実施案について
- 4 ボランティア養成講座（3）アンケート集計結果

## 第3回連携協議会 会議録

### 1. 報告

- (1) 障がい者の生涯学習講座の実績について  
資料に基づき報告
- (2) 実績報告書の作成について
- (3) 来年度事業案について  
資料に基づき報告  
来年度事業の方向性
  - ・比内支援学校青年学級総会（4月）で相談してもらい、講座内容へ反映
  - ・ボランティア養成講座  
アンケート調査結果より  
当事者を招いた、当事者の声を聞く講座、一緒に体験する講座

#### 〈コーディネーターより〉

- 成果：参加人数が増えた。理由は事務局の講座内容及び開催方法への柔軟な対応  
委員の要望に応えた開催方法（アーカイブ、パソコン講座）  
「障害」⇒「障がい」へ記載を変更（委員提案）  
委員が講座を見学参加（大きな一歩）
- 課題：どんな講座がいいのかを深めることが必要
  - ・卒業生、利用者へ聞く機会を作る。  
比内支援学校青年学級、白沢通園センター、とっと工房等
  - ・保護者の声を聞く  
手をつなぐ育成会
- 評価：広報、ホームページへの掲載  
比内支援青年学級を中央公民館で開催できた。

資料より：講座に1回参加したリピーターが案外多い。敷居は高いかもしれないが、1回参加してもらうような努力を委員がしていくといい。  
この事業の対象者数を調べた。福祉課障害福祉係へ照会し、資料作成。  
対象者は人口の3%（手帳所持者からの数字。身体障がい者の65歳以上約3,000人は老齢によると判断し除外）合計で2,073人。  
人口の3%。トータルで約2,000人は少なくはない。

#### ○協議内容○

- (1) 生涯学習講座の実績について
  - 障害者雇用の調査対象は手帳の所持によっている。障がい者を雇用してよりよい世の中を作っていこうという趣旨だが、実際手帳を持たず、頑張っている人もおし、調査が矛盾している。この事業の対象者が約2,000名と紹介されたが、実際はもっと多いと思う。数だけをクリアしたらいいものではないと感じた。  
⇒（コーディネーター）実際にはLD、ADHD等、グレーゾーンの子どもも増加している。実際にはこの2～3倍の可能性はある。
  - おうちパン講座に参加して、障がい者との交流ができた。講座内容やボランティア養成講座でも同じようなものを開催しており、もっと横のつながりを生かして連携していけたらと思う。
  - この事業の主軸は、生涯学習機会の提供と障がいの理解促進とどちらにあるのか。  
⇒（事務局）主軸は生涯学習機会の提供であるが、参加するための支援者の育成として、ボランティア養成講座を開催しており、両輪で動くものと考えている。
  - 自立差別解消支援協議会のサポーター養成講座の目的は、共生社会の実現へ向けて障がいの理解啓発である。当事者に参加してもらい、普段の生活や考え方への理解を深める講座などを行っている。目指す方向は学びも理解啓発も同じなのかと思う。

- ⇒（事務局）ボランティア養成講座のアンケートにも連携していけたらと思う。今回講座のチラシ作成で気づきがあった。補助事業のためチラシの左上に「障がい者の生涯学習」と記載していたが、「障がい者の」は果たして必要か。途中から記載しないことにした。
- ⇒（連携施設）今は中央公民館をメインにしているが、地区公民館がより近いこともあるため、事業展開を考えていく。
- 講座に、障がい者が教えるものがあつたら素晴らしい。音楽ならば聴くだけでなく、一緒に参加したらいいし、障がい者が教えあうのもいい。
- ⇒（会長）一緒に講座を作り上げるものがあつてもいい。考えていけたらいい。

### （3）来年度事業案について

- 補助金終了後の事業展開はどうするか。
- ⇒3、5年とのしぼりは特になく、事業目的が公民館事業の講座に障がいの有無に関わらず参加できるようになることのため、公民館講座が充実していくと、自然にそこに集約されていくのではないかと考えている。
- 送迎と利用者の特性の問題があり、外に出て参加することは厳しい。また、独自で動く時の人的、物的情報が少ないため、利用者の作品を展示できる機会の情報提供があるといい。
- 車イスの方が利用できる車の問題もある。補助金はリアルな問題。行政の方の考え方だと思う。3%にいくら使うかになるのか、共生社会のためにはこれだけのお金がいるとなるのかだと思う。
- ⇒（事務局）事業を施設で開催することは厳しいが、市の出前講座を活用することで、施設内での開催は可能かと考える。バスについては福祉部門の課題とさせてほしい。
- 市が試行しているmobiがある。いいことなので連携できたらと思う。
- ⇒（事務局）担当課へ照会したところ、試行期間であるため、現在は手帳の提示による割引はしておらず、何とも言えないとのこと。
- ⇒（白沢・庄司）連携協議会には福祉課も入っているの、働きかけをお願いしたい。作品は見せたい、こんなことができることを知ってもらう機会を作してほしい。
- ⇒（事務局）何かのイベントに加えるなど、機会を作りたい。
- ⇒（連携施設）上川沿公民館の広いロビーは地区だけでなく、だれでも利用できるの、使ってほしい。中央公民館もスペースはあるので、相談してほしい。

### 〈比内支援学校より〉

- ・12月青年学級を中央公民館で開催できてよかった。楽しく参加できていた。
- ・社会教育施設を利用する経験が大事。課題は参加者の固定化で、いかに広げていくか。卒業生へのアプローチは難しいので、在学中から卒業を見据えた取り組みが必要。
- ・事業実施案では、複数を結びつけた講座開催を検討できないか。参加者が選択できると参加が広がる。
- ・ボランティア養成講座では、学校後援会会員にも広げた活動の充実を考えている。生涯学習の参加を含めながら、後援会組織にも活用して広げていけないか考えている。
- ・生涯学習講座参加がボランティア養成にも結びついていくタイアップがあつてもよい。
- ・高校生のボランティア養成でも、学校行事に参加しながら学んでいく、支援学校の部活動と一緒に入りながら学ぶなどをやっている。活動と講座をタイアップしていけると思うのでお願いしたい。



## 各講座の報告

- 1 「やっぱり、2の次は3ですね」
- 2 令和4年度障がい者の生涯学習講座事業実績
- 3 講座実施報告書
- 4 ボランティア養成講座アンケート集計結果

## 成果と課題

## 来年度事業実施(案)

## 『やっぱり、2の次は3ですね』

コーディネーター

佐藤 正好

今年度の私の遊びの目標に、「鳳凰山に5回は登ろう」があった。年に300回以上も登っている人からすると何と微々たる目標であるが、当の本人にとってはドキドキものである。5月から毎月1回のペースで7回登り、一応目標は達成できた。今、「趣味はなんですか？」と問われれば、山登りもその1つとして答えるだろう。

さて、障がい者の生涯学習事業が2年目に入った。今年度は昨年度の講座をベースにしながらも木のリース作り、生花、ポッチャ大会、パン作り、楽しむ音楽等があった。ほとんどの講座に参加させてもらったり、参観させてもらったりしたが、参加している方々がとてもよい顔をしている姿が嬉しく映った。生花はアーカイブ配信であり、新設のパソコン講座も時代の要請を感じるものがあった。さらに、今年度はこれまで学校を中心に展開していた比内支援学校の青年学級が初めて大館市中央公民館で開催され、スタッフを含めて50人弱の参加者で賑わった。全講座の参加人数をトータルすると昨年度を上回っていると思う。

その要因を考察してみると、まず2年目の講座展開を短時間で熟考し、挑戦していることである。何の講座がヒットするのかを迷いながらも、打ち上げ花火的にまず実践してみる姿勢が評価できる。

次に、連携協議会の委員の方々の姿勢に変化が見られたことである。本事業を推進するために、関連するトップの方々に参加してもらっている。その方々が机上の理論だけでなく、実際に講座に参加して意見を述べ本気で本事業を充実させようとしている。「どことこのカレーが美味しい」と言われても、やはり風味も臭いも雰囲気も、ましてや作っているマスターの顔すらわからない。やはり、百聞は一見に如かずである。

最後に本事業を総括する生涯学習課がタフである。参加者の少ない講座にもめげずにしっかりと前を向いている。連携協議会での意見のなかには無理難題もあるが、これからの市の障がい者講座の充実のためには傾聴していきたいものも少なくない。講座出席者からの意見聴取、本事業に係るホームページや市広報での情報発信、障がい者の「がい」のひらがな表記など、今年度の協議会后にすぐに実践した事項も多く、当課の懐の深さを心地よく感じている。

翻って、鳳凰山の山登りではいやなこと多い。鳳凰山に登れば大概な山には登れると言うほどきつい箇所がある。特に、1合目から3合目までと7合目から頂上までの体感斜度79度の区間である。「何で自分は登っているんだろう」「引き返す勇気も必要だ」などと、本当によく考える。そして、毎回思うのが、この1歩の積み重ねのずっとずっと後に頂上があること、いくら大股で歩いても、走っても1歩目の次が2歩目で、2歩目の次が3歩目・4歩目という事実である。きつい時ほど、幼児でもわかるこんなアホなことを考えながら登っている。

本事業も今年度で2年目を終え、3年目につながる。本事業の今の進捗状況が何合目に位置するのはわからないが、この1年の1歩が、次につながることは確かである。コロナで翻弄された時代も、今春から感染症法の分類が変わり、規制緩和とともに講座運営もしやすくなると思う。まだ、コロナ禍ではあるが、連携協議会委員の方々を始め生涯学習課のスタッフと共に、誰もが笑顔になる本事業の充実を目指して、次の3や4のステージに向けた取組を支えていきたい。

# ◇令和4年度 障害者のための生涯学習事業日程実績

R5. 1. 23現在

## 【生涯学習講座】

No.	開催日	時間	テーマ (内容)	参加費	定員	講師	会場	対象	実績
1	9/3 (土)	10:00～11:30	SDGs 木のリース作り講座	無料	—	木育インストラクター 河田 美智子氏	中央公民館	障害者 保護者 関係者	16人 参加
2	10/1 (土)～ 10/14 (金)		一花一葉講座 ～アーカイブ配信～	無料	30	市内生花店4店	自宅他	障害者 保護者 関係者	13人 参加
3	10/30 (日)	9:00～12:40	《比内公民館主催》 ポッチャ交流大会への参加	無料	16 チーム	(協力) スポーツ振興課、生涯学習課、 スポーツコミッション大館、 大館市スポーツ協会	比内体育館	市民 障害者 関係者	1人 (127人)
4	11/12 (土)	10:00～12:00	おうちパン	200円	12	小山久美氏 早川加奈子氏	比内公民館 調理室	障害者 保護者 関係者	12人 参加
5	12/4 (日)	10:00～12:00	比内支援学校 青年学級	200円	—	木育インストラクター 河田 美智子氏	中央公民館、 第1、2研修室 展示室 アリーナA	比内支援学校 卒業生	27人 参加
6	1/14 (土)	10:00～12:00	パソコン講座	無料	5	大館学び大学	大館学び大学 キャンパス	障害者 保護者 関係者	5人 参加
7	1/22 (日)	13:30～15:00	今年も音楽で遊ぼう	無料	20	音楽療法士 田口 諒也氏	中央公民館 視聴覚ホール	障害者 保護者 関係者	17人 参加

※実績には、参加者のほか、見学、協議会委員を含む。

## 【ボランティア養成講座】

1	8/31 (水)～ 9/20 (火)	アーカイブ配信	ボランティア養成講座 (1) 障害とはなんだろう 必要な配慮について	—	—	・比内支援学校 教育専門監 藤田久美子氏 ・登山ガイド 大川 美紀氏	中央公民館	市民・学生 保護者 関係者	4人 参加
2	11/26 (土)		ボランティア養成講座 (2) ハチ公オープン	—	—	本講座を通じた申込がなかったことから、募集していない			
2	1/7 (土)	10:00～ 11:30	ボランティア養成講座 (3) 北秋田市障害者生活支援センター ささえの歩みとめざすもの	—	—	北秋田市障害者生活支援センター 「ささえ」 管理者 中村 智子氏 相談員 庄司 真樹子氏	中央公民館 視聴覚ホール	市民・学生 保護者 関係者	29人 参加

## 講座実施報告書

令和 4 年 9 月 5 日

講座名	SDG s 杉の端材を使った木のリース作り講座		
開催日時	令和4年9月3日(土) 10時00分～11時45分		
開催場所	中央公民館 第1・2研修室	講師名	河田 美智子
参加者数	16名(大人12名・高校生1名・子ども3名) うち障がい者3名		
実施内容	<p>(事前準備) 参加者数を講師へ報告(講師:材料準備)</p> <p>(当日準備) 本日のスケジュールを確認 黒板に、講座名・講師名・タイムスケジュールを書き、全体の流れを理解できる用準備</p> <p>(講座開始) ①講師が、SDG s について説明 ②SDG s の視点から取り組むと、どんなものでもリースを作る素材になることを紹介 ③各自素材を取り、制作開始 ④制作後、作品鑑賞しながら、コミュニケーションをとる</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作にはさほど時間がかからないとの講師の話だったが、互いのリースを見せ合い、褒め合いながらゆったりと制作し、あっという間に1時間が経過した。</li> <li>・申込は、各施設や学校からのチラシによっており、本人が行きたいと家族へ伝えて参加につながったことがわかった。</li> <li>・特に時間を設けなくても、制作の途中で会話が弾んだ。その会話の中で物作りが好きな方が参加していることがわかった。</li> <li>・会話の中で、音楽や体を動かすことも好きであることがわかった。</li> <li>・次の一花一葉講座のチラシを配布し、次の講座の参加へ繋いだ。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナにより活動自粛している施設もあり、参加者数は自粛傾向であった。</li> <li>・広報への掲載が間に合わなかった。周知の伝わり具合が不明。</li> <li>・連携協議会委員にも声掛けをお願いしたが、複数回の声かけでないと、参加を考えてもらいにくいように感じた。</li> <li>・さまざまな種類の講座、手段(参加型、オンライン、アーカイブ)を試して、参加してもらいやすい方法を考える必要がある。</li> </ul>		

9月3日(土) SDGs 木のリース作り講座



## 講座実施報告書

令和 4 年 10 月 21 日

講座名wo	一花一葉講座（アーカイブ配信）		
開催期間	令和4年10月1日（土）～10月14日（金）		
開催場所	自宅	講師名	市内生花店4店舗
参加者数	13名（大人8名・高校生5名）うち障がい者7名		
実施内容	<p>（事前準備）</p> <p>①ダリア引換券を花を受け取る店舗へ設置</p> <p>②アーカイブ用動画を収録（配信用に編集）</p> <p>（アーカイブ講座内容）</p> <p>①講師紹介</p> <p>②生ける前の説明</p> <p style="padding-left: 20px;">・花の持つ力 ・ダリアはどんな花？</p> <p style="padding-left: 20px;">・お花屋さんのはさみ ・はさみの使い方 ・花びんのお水</p> <p>③ダリアを生けてみよう</p> <p>④葉っぱを生けてみよう</p> <p>⑤いろいろな生け方</p> <p>⑥あなたの作品をお待ちしてます。（送り先をアップ）</p> <p>（事後）</p> <p>①送付された作品を生涯学習課のサイトへアップ （出品者のニックネーム入り）</p> <p>②それぞれが鑑賞 （感想を伝える交流はしていない）</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ影響とダリアの安定供給のため、時期を遅くすると共にアーカイブ配信へ変更した。</li> <li>・自主的な申込みは5名であった。</li> <li>・在学中から参加経験を積んでもらうことが必要と考え、比内支援学校高等部（寄宿生）へ声かけし、指導者を含む8名が参加した。事業を知ってもらうことができた。</li> <li>・卒業後の公民館での講座参加へつながる可能性となった。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーカイブ配信講座の需要が不明 （自主的参加が少ない理由が、配信にあるのか、内容にあるのか不明</li> <li>・重度の方へ配信による参加の可能性はできたが、望む講座を知ることが難しい。</li> <li>・作品を掲載後、参加者の声を聞けた方がよい。</li> </ul>		

10月1日(土)～14日(金)一花一葉講座(アーカイブ配信)作品



かのん



けいた



こうだい



サット



はやと



ハリ



ちえみ



むつこ



みーちゃん



フラワーHIMAWARI



まゆみ



ようこ



ミンミン

## 講座実施報告書

令和4年10月31日

講座名	比内公民館ボッチャ交流大会		
開催日時	令和4年10月30日（日） 9時00分～12時50分		
開催場所	比内体育館	講師名	大館市 スポーツ振興課職員
参加者数	一般参加 35名（うち障がい者1名） スタッフ 12名（スポーツ振興課2名、スポーツ推進委員1名、 比内地区スポーツ振興会1名、スポーツクラブ ひない1名、生涯学習課3名、比内公民館4名）		
実施内容	（準備） ①ボッチャコートラインテープ張り ②ボッチャ用具借用 （講座開始） ①スポーツ振興課職員よりルールや得点の数え方など競技説明を行っていただいた。 ②1リーグ4チーム×3リーグ、6エンド制にてリーグ戦を行った。 ③各リーグの1位、2位のチームへ賞品を贈呈した。		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽に参加できるようチームまたは個人参加を募り8名の個人参加があった。</li> <li>・審判などの大会運営に関し各種団体の協力が得られた。</li> <li>・得点の数え方など参加者同士のコミュニケーションが図られた。</li> <li>・障がい者の参加は少なかったが、障がい者施設関係者の参加があった。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者、サポーターの参加が少なく周知方法に課題があった。</li> <li>・障がい者施設職員より障がい者の送迎を検討してほしいとの要望があった。</li> </ul>		

10月30日（土）比内公民館ポッチャ交流大会



## 講座実施報告書

令和 4年11月14日

講座名	おうちパン講座		
開催日時	令和4年11月12日（土）10時00分～12時00分		
開催場所	比内公民館 調理室	講師名	小山 久美 早川加奈子
参加実数	12名（大人12名） うち障害者 5名		
実施内容	<p>(事前準備) 参加者数を講師へ報告</p> <p>(当日準備) 調理台等消毒、材料分量計測、打ち合わせ、受付準備</p> <p>(講座開始) 挨拶、講師紹介の後</p> <p>①本日の流れを説明</p> <p>②講師が事前に練ってきたパン生地をこねて、トッピングを行い、オーブンで焼く。</p> <p>③焼いている間に、パン生地を作る工程を講師の説明に沿って行い、できたものはタッパに入れて、持ち帰り</p> <p>④焼けたパンと飲み物で試食会を開催</p> <p>⑤講座の感想発表を行い、終了</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤コーディネーターの声かけにより、比内支援学校寄宿舎指導員が参加した。また、連携協議会委員の見学があり、実際に講座に参加し体験してもらうことができた。</li> <li>・参加者は意欲的にパン生地作りを行い、和やかに会話をしながら、各々進行状況を褒めあいながら、体験できた。</li> <li>・楽しかった、また参加したいとの感想があった。</li> <li>・講座開催情報は保護者が見つけたが、自らの意志で参加を決めていることがわかったことから、保護者への効果的な周知を探る必要がある。</li> <li>・自らの情報を得られるようなネット環境からの情報発信も有効ではないか。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち物への理解と周知不足があった。靴からスリッパへの履き替えの際、専用靴が必要な方が車に取りに戻ることになってしまった。周知の徹底又は会場選択時の配慮が必要。</li> </ul>		

11月12日（土）おうちパン講座

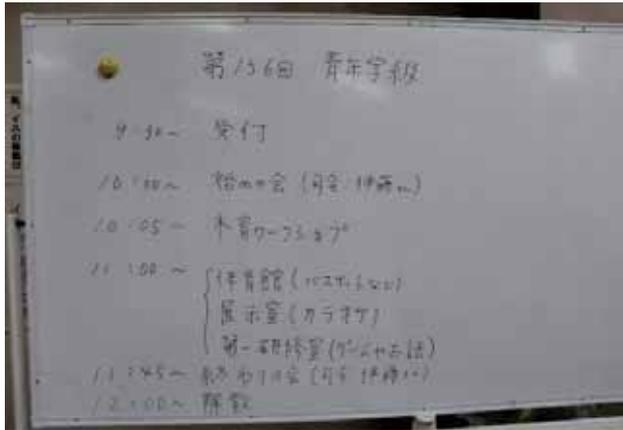


## 講座実施報告書

令和 4年12月 7日

講座名	比内支援学校 第156回青年学級		
開催日時	令和4年12月4日（日） 10時00分～12時00分		
開催場所	中央公民館 第1・2研修室 展示室、アリーナ	講師名	木育インストラクター 河田 美智子
参加者数	27名（青年学級21名、保護者ほか6名）		
実施内容	<p>別紙要項のとおり （事前準備） 青年学級担当教諭と事務局が事前に連絡調整 日程、講座内容と講師手配、双方の準備するもの</p> <p>（当日） 開会行事（司会／青年学級） ①木育講座 クリスマスツリー制作 ②各方面に分かれて活動 ・おしゃべりとクイズ、ゲーム ・バスケットボール ・カラオケ 閉会行事（司会／青年学級） 今日の活動への感想発表</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想発表では楽しかったとの発言があった。</li> <li>・黙々と集中して、ツリーを作っていた。</li> <li>・参加者が笑顔で楽しんでいる。</li> </ul> <p>《比内支援学校担当教諭より》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツリー作りワークショップは、学校の授業みたいで楽しかったとの感想があった。</li> <li>・次回4月総会では、「公民館でやる活動として、どんなことをやってみたいか、聞く機会を設けニーズを聞ける可能性を感じた。</li> <li>・音楽要素がある講座、体育的要素がある講座（ボッチャなど）も楽しめると思う。ボッチャであれば審判補助の可能性、運営にも関わられるかもしれない。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加するのは圧倒的に男性が多い。女性の参加を促す方策が必要。</li> </ul>		

12月4日（日）比内支援学校青年学級

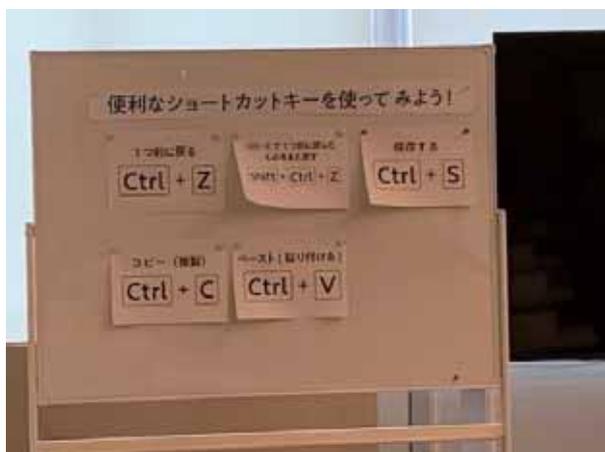


## 講座実施報告書

令和 5年 1月16日

講座名	初心者向けパソコン体験講座（ワード）		
開催日時	令和5年1月14日（土） 13時30分～15時00分		
開催場所	大館学び大学	講師名	大館学び大学
参加者数	5名（うち障がい者5名）		
実施内容	<p>（準備）12時30分から講師と一緒に、準備開始 スケジュールは事前共有済。資料は講師準備済</p> <p>（講座開始）</p> <p>①講師が、本日はワード入力操作を学ぶことを説明 （テキストとスクリーン）</p> <p>②ワードはどんな時に使用するツールかを説明</p> <p>③文書作成体験開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の位置を整える</li> <li>・文字の位置を変える</li> <li>・便利なショートカットキーの使い方など</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10分の休憩を除いて、集中して取り組んでいた。</li> <li>・講師が個別にわからないところ（動きが止まっている）、前向きに黙々と取り組むことができていた。</li> <li>・終了後いつもと違うことをしたためか、疲れたと言いながらも笑顔でいることから、充実感が伝わってきた。</li> <li>・楽しかったとの感想があった。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加すると楽しむことができるが、1回のチラシ配布のみでは参加につながらない。（複数回の声かけが必要）</li> <li>・参加者に入力能力差があり、予定の半分の内容で終了したため、今後同様の講座開催では、初心者／初級者等クラス分けを行う必要がある。文字入力では、3名がカナ入力を選択しており、開始時に確認するとよりスムーズに講座が進行できる。</li> </ul>		

1月14日（土）初心者向けパソコン講座



# 講座実施報告書

令和 5年 1月24日

講座名	今年も音楽で遊ぼう		
開催日時	令和5年1月22日（日） 13時30分～14時30分		
開催場所	中央公民館 視聴覚ホール	講師名	音楽療法士 田口 諒也
参加者数	13名（うち障がい者12名）		
実施内容	<p>（準備）12時30分から講師と一緒に、準備開始 スケジュールは講師におまかせ</p> <p>（講座）講師紹介後、バトンタッチ</p> <p>①導入：講師 弾き語り</p> <p>②講師が弾く曲に合わせて、サポーターが持ちまわる打楽器を順に打つ。</p> <p>③前列にある打楽器を自ら選び、講師の曲に合わせて自分の感性で曲に合わせる。</p> <p>④ギターやドラムの演奏希望者がステージへ上がり、曲のリズムに合わせて、打つ。その他の方は自席で演奏。</p> <p>⑤参加者から曲のリクエストをもらい、それに合わせて、使いたい楽器を選んで、演奏してみる。</p> <p>⑥リクエスト曲に合わせて、めいめいが演奏者になって、楽器と曲を楽しむ。</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師のトークが卓越しており、曲の合間にも、だんだんとリラックスしてきて、ステージ上での楽器演奏では、積極的に3名が上って演奏できた。</li> <li>・交流が苦手な参加者がいたが、席から動くことはしないが、保護者に促されて、曲の締めなどでうまく打つことができていた。</li> <li>・講座で使用するのは主に打楽器だが、曲の雰囲気に合わせて、楽器の打ち方を変えて、楽しんでいた。</li> <li>・連携協議会委員の参加があり、場を共有し、演奏に加わってもらえた。</li> <li>・広報1月号掲載の講座情報を見ての申し込みが多かった。</li> <li>・過去の講座へ参加した方のリピーター参加があり、興味がある講座への参加が少しずつ増えている。</li> </ul>		
反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座り方を工夫する。教室方式としたが、丸くスペースを取り、真ん中に楽器を置いて、取りやすいようにすると、演奏の自由度が増す。</li> </ul>		

1月22日（日）  
今年も音楽で遊ぼう！



## ボランティア講座（１）実施報告書

令和 4年 9月22日

講座名	ボランティア養成講座（１） ～アーカイブ配信～		
開催日時	令和4年8月31日（水）～9月20日（火）		
視聴場所	自宅他	講師名	県立比内支援学校 教育専門監 藤田 久美子 登山ガイド・障がい当事者家族 大川 美紀
参加者数	4名（教諭1名・高校生3名）		
実施内容	<p>（準備）参加者は全員、動画視聴を選択した。 講師1名が直前、当日講演できない事情を抱えた。 ⇒アーカイブ配信へ変更し、参加者へ通知</p> <p>（収録）講師ごとに収録</p> <p>（配信）参加者へ配信期間を通知し、レポート提出を求めた。</p> <p>（提出）期日までに、レポートが提出された。</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染拡大局面だったこともあり、全員が動画視聴の希望を選択したことと、講師の都合により、アーカイブ配信となったが、ネットを活用した講座開催は、空いている時間に視聴できるため、座学については、会場参加と動画視聴の両方を実施することが有効。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が少なかった。理由は、周知から当初の開催日までに時間的余裕がなかったことと、座学のみだったことが考えられる。内容を複数にした方が、より興味付けされやすいのではないか。</li> </ul>		

## ボランティア講座（3）実施報告書

令和 5年 1月 9日

講座名	ボランティア養成講座（3）		
開催日時	令和5年1月7日（土） 10時00分～11時30分		
開催場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公民館</li> <li>・視聴覚ホール</li> </ul>	講師名	北秋田市障害者生活支援センター ささえ 管理者 中村 智子 相談員 庄司 真樹子
参加者数	27名		
実施内容	（準備）前日 会場内掲示を完了 当日 施設入口等への掲示完了 パソコンとプロジェクター接続を確認 （講演）主催者あいさつ後 ①講師紹介 ②講演 <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人が交互に映像に合わせて、ささえの設立かこれまでの歩み及び光の会の活動への寄り添いを紹介</li> <li>・ささえがどんな方向へ進むのか。どのように支えていくのか。</li> </ul>		
成果	（アンケートより） <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師と施設職員が障がい者の成長を支え、外へ出る活動へと誘い、その活動を支えていく様子が笑顔で語られており、参加者にその姿勢が伝わっていた。</li> <li>・やりたいことを聞き出し、課題を解決するためのプロセスが語られており、支えることを具体的に知ることができた。</li> <li>・障がい者の声を聞きたいとの回答が複数寄せられた。</li> <li>・一緒に活動したいとの声があった。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演は、当初先進地視察先、体験先として相談していたものを、コロナ影響により実施は厳しいと判断して、講師として来館していただくことにしたものだ。ささえでの体験（一緒に楽しむ）をどうやったらできるか、今後の国の感染対策を注視しながら、利用者と施設へ負担とにならない方法を見出す必要がある。</li> </ul>		

## 《成果》

- ・ 広報や市ホームページを活用した情報発信を始めた。
- ・ 周知先の拡大を図った。  
（秋田県北NPO支援センター、比内支援学校後援会）
- ・ コロナ感染拡大局面におけるネットを活用した講座開催ができた。
- ・ 比内支援学校青年学級（第156回）を初めて市立中央公民館で開催でき、総勢50名が参加し、大変好評であった。
- ・ 連携協議会委員が各講座へ参加・参観した。それにより、会議での意見等が現実的かつ具体的に深化し、本事業推進の一層の理解と意欲につながった。
- ・ 連携協議会協議にて、福祉部門との連携の可能性がでてきた。
- ・ 顔が見える活動をすることと、各委員が情報を共有することの重要性を会議の中で共有できた。

## 《課題》

- ・ 情報がどこまで届いているのか、不明である。
- ・ 講座参加の最初の1歩のハードルが高く、内容を丁寧に説明する必要がある。
- ・ 点在している障がい者の生涯学習情報を一か所にまとめたプラットフォームを作ることが必要である。
- ・ 障がい者の希望に沿った講座内容にするためには、声を直接聞くことが必要である。
- ・ 講座を組み合わせるなどして、参加者が選択できるようにすることが必要ではないか。
- ・ 補助金に頼らない通年の講座開催を検討するべきである。

## 《来年度事業実施（案）》

### ●生涯学習講座について

- ・講座内容の方向性 音を楽しむ （音楽で遊ぼう ⇒ のど自慢大会 など）  
体を動かす （各種スポーツ体験 など）  
ものづくり （木育 など）  
ゲーム （ボードゲーム など）

### ・当事者の声を聞く

比内支援学校青年学級（4月総会）や白沢通園センター等利用者から意見を聴取り、講座内容へ反映

- ・1回の講座での数種類の講座を実施し、選択できるようにする。

### ●ボランティア養成講座

福祉部門との連携

当事者を招いた、当事者の声を聞く講座、一緒に体験する講座

### ●情報共有（事業連携）

福祉部福祉課障害福祉事業（障害者自立生活センター）

障害者スポーツ事業

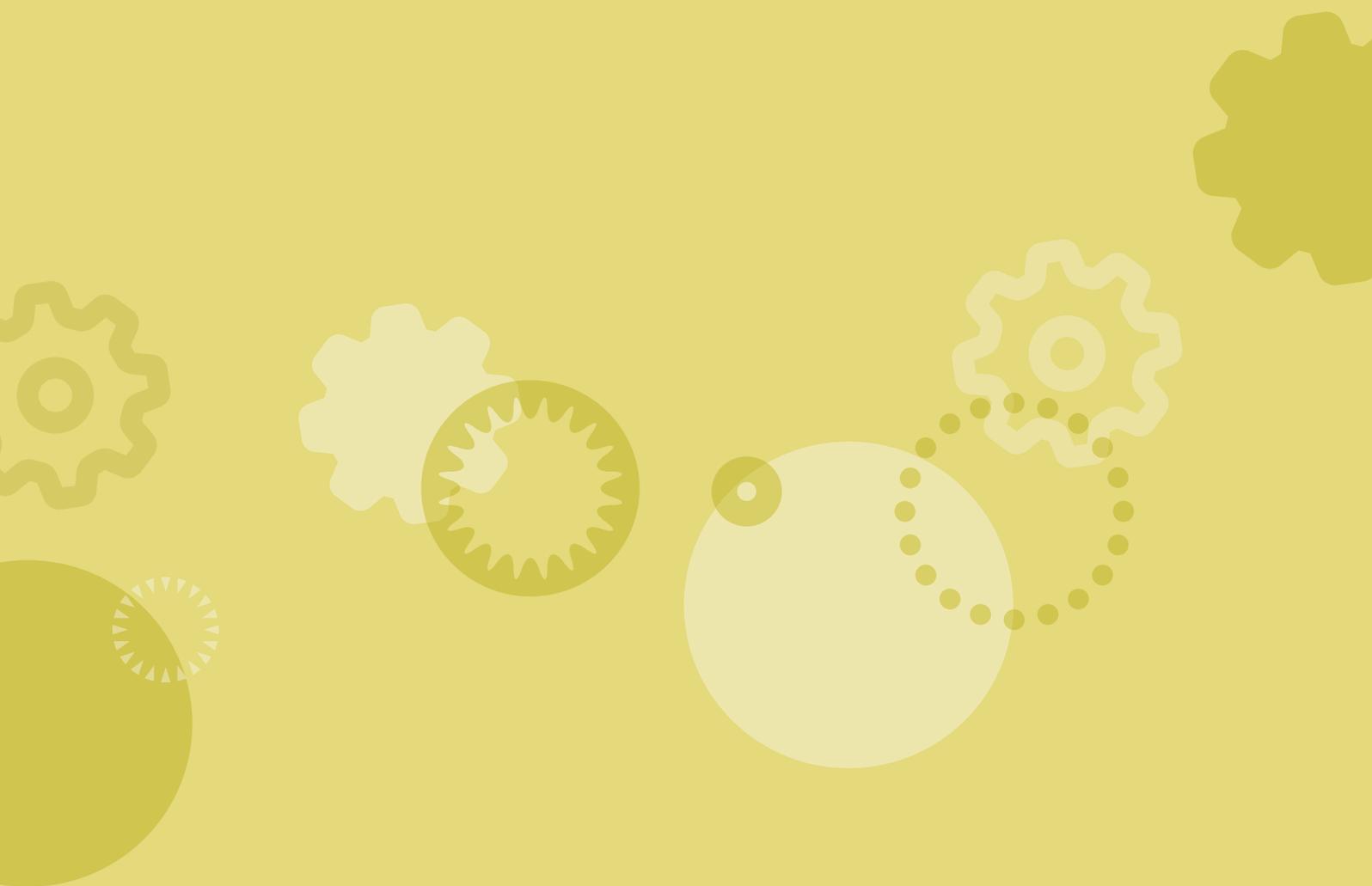
大館学び大学

こんにちは！「はちくん」です。  
大館市観光キャラクター  
兼 教育委員会 指導主事・社会教育主事  
を委嘱されています。





# 資料



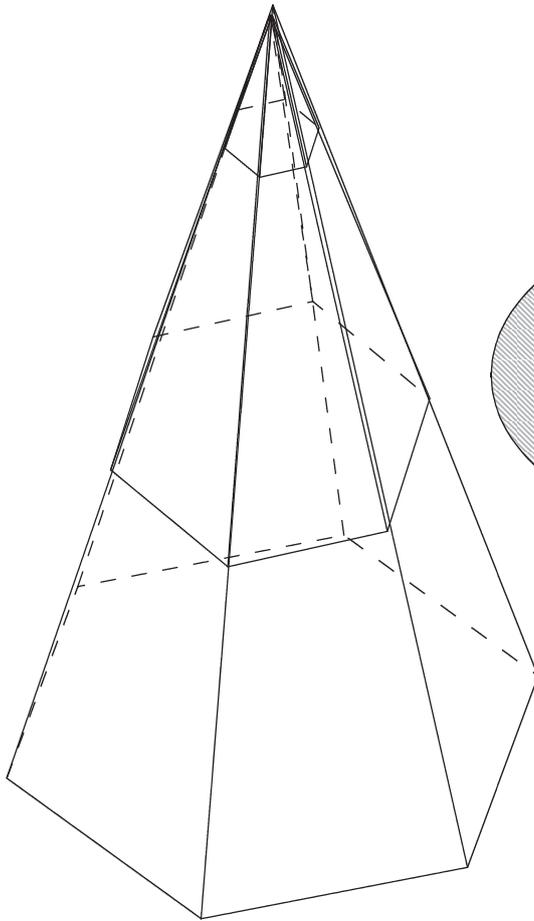
第1回大館市生涯学習連携協議会に係る会議資料

～ 障害のある方がより講座に参加するために ～

令和4年7月5日

佐藤CO

【一般組織】



1

《会議出席者》

- ・施設長 ・校長
- ・協会長 ・長
- ・他

2

《中間者》

- ・主任 ・職員
- ・世話人 ・介護人
- ・他

3

《本事業対象者》

- ・障害のある方

[まとめと]

- ・まず、障害のある人に直接伝える方が理解していないとよく伝わらない
- ・その中間者の職員が、実際の講座に参加することで理解が広がる
- ・1 / 3の理論：職員が10人～1 / 3が反対、1 / 3がまあまあ理解、1 / 3が積極的に理解：つまり3人が参加の可能性がある

地域活動支援センター利用状況(R4.4月～9月)

◎利用状況

	教室・講座・活動					サロン					合計		
	身体	知的	精神	合計	付き添い 高齢者	身体	知的	精神	合計	付き添い 高齢者	障害者	付き添い 高齢者	合計
4月	52	2	19	73	6	27	10	34	71	5	144	11	155
5月	34	5	24	63	4	11	7	38	56	5	119	9	128
6月	43	11	25	79	9	13	11	41	65	4	144	13	157
7月	61	8	45	114	11	12	8	70	90	3	204	14	218
8月	62	2	29	93	3	10	4	40	54	2	147	5	152
9月	57	10	18	85	12	12	20	35	67	1	152	13	165
計	309	38	160	507	45	85	60	258	403	20	910	65	975

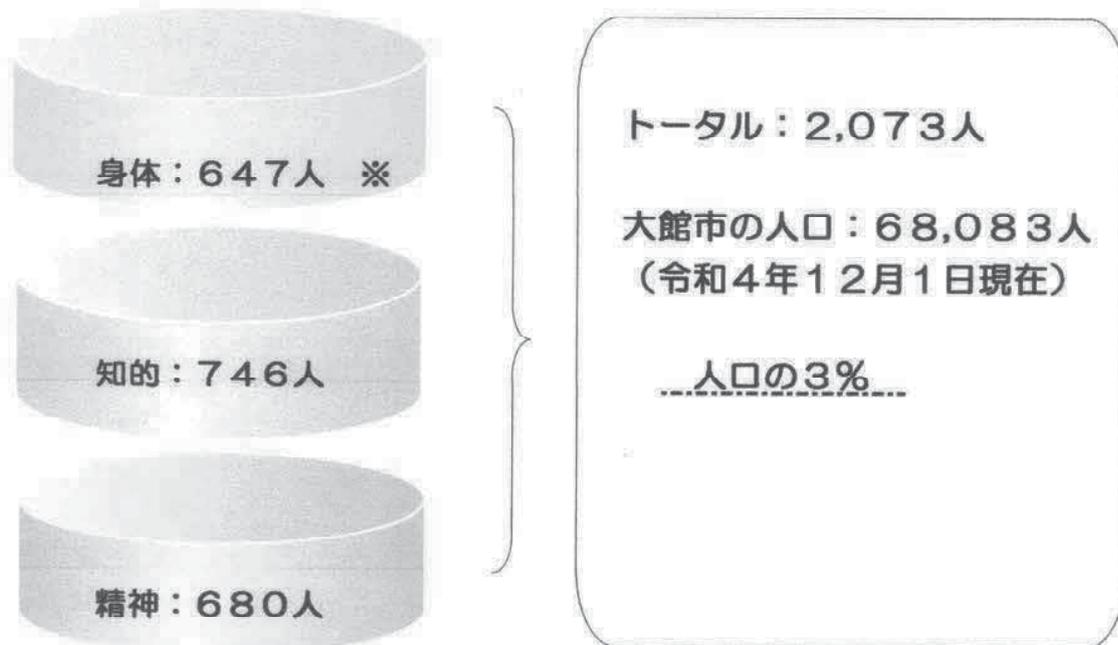
◎活動状況

- |           |              |                   |
|-----------|--------------|-------------------|
| ◎教室       | ◎活動          | ◎講座               |
| ・音はともだち教室 | ・さんぽの日       | ・スポーツ講座           |
| ・エコクラフト教室 | ・ゲームの日       | (卓球バレー、ポッチャ)      |
| ・パンフラー教室  | ・おでかけ交流会     | ・ポーセラーツ講座         |
| ・パソコン教室   | ・グラウンドゴルフ交流会 | ・サマーアレンジ講座        |
| ・編物教室     |              | ・フラワービーズのアクセサリー講座 |

令和5年2月13日会議資料

明らかにすること：本事業の対象者は何人いるのか（概算）

コーディネーター 佐藤



〔参考資料1〕大館市障害福祉課への聞き取り調査（令和5年1月31日現在）（人）

	身体障がい	知的障がい	精神障がい
64才以下	647（※）	612	549
65才以上	2,916	134	131
全体	3,563	746	680

※ 身体障がい者の場合は、年齢による身体障がいの場合と一応区別するために、64才以下の身体障がいの数字を使用することにした。なお、この数字は手帳を持っている人の数であり、診断はされているが手帳を申請していなかったり、グレーゾーンであったりする方は数値化されていない。また、LD・ADHD・ASDの発達障がいがあり、手帳を取得している場合は精神障がいに含まれる。◇人数はあくまでも参考

〔参考資料2〕令和4年度の特別支援学級及び特別支援学校の人数（人）

校種等	人数			
	小	中	高	計
市特別支援学級	63	39		102
比内支援学校	29	39	58	126
計	92	78	58	228

（令和4年4月1日現在）

令和4年7月30日(土)  
障がい者の生活支援事業  
ポランディア事務局(1)

# 障害とはなんだろう ～必要な配慮について～



比内支援学校 教育専門監 藤田久美子

1

## 障害とはなんだろう

目が見えない  
音が聞こえない  
一人で歩くことができない  
文字が読めない  
人とうまくコミュニケーションがとれない  
予定が変わると不安になったりパニックになる  
忘れ物がなくなかない  
予定の時間で物事が終わらない

2

## 障害のとらえ 二つのとらえ方

### 個人モデル

障害や不利益、困難の原因は個人の心身機能が原因である



その障害を解消するためには、立って歩けるようになるためのリハビリなどによる**個人の努力や訓練・医療福祉の領域の問題**と考える。

3

## 障害のとらえ 二つのとらえ方

### 社会モデル

障害や不利益、困難の原因は障害のない人を前提に作られた社会の作りや仕組みが障害をつくりだしているという考え

階段など立って歩くことが求められる環境が合わさって障害にぶつかる。

社会の作りや仕組み（社会的障壁）を調整することで不利益や困難が解消される



4

## バリア（社会的障壁）

### 事物のバリア

施設や建物など物理的な障壁

### 制度のバリア

障害者が利用しにくい制度やルール

### 慣行のバリア

障害者を想定していない慣習や情報提供

### 観念のバリア

無関心 偏見 無理解など

5

## はじめに「気づく」ことから

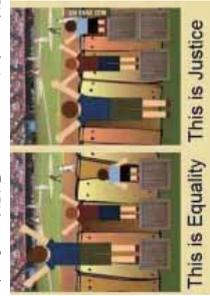


いろいろな人がいることに気づいてほしい

6

## 平等と公平

野球を観戦したい！  
平等な配慮 と 公平な配慮



This is Equality This is Justice  
平等 公平

7

## 本校児童生徒の障害

多様化の傾向にある



9



比内支援学校 創立47年目

8

社会モデルの視点でとらえてみよう

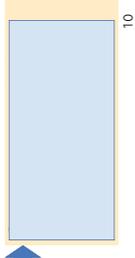
身体に障害がある

事故による損傷や先天性の疾病などが原因で、欠損・まひ・筋力低下などが生じる。個人の状態は様々だが、日常の動作や姿勢の維持などが不自由になります。まひや筋力低下により、言葉がスムーズにでない、思い通りに動かせないことがあります。

- ・車椅子
- ・エレベーター
- ・段差の解消
- ・障害者用駐車場
- ・身障者用トイレ等

想像する難しさ

- ・段差や階段を一人で登ることが難しい
- ・小さいトイレの利用が難しい
- ・スムーズなコミュニケーションが難しい
- ・狭い駐車場の利用が難しい



社会モデルの視点でとらえてみよう

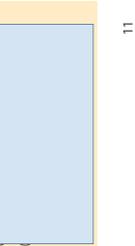
聴覚（耳）に障害がある

聞こえ方は様々です。聞こえ取れないレベルから耳元で叫んでも聞こえ取れないレベルまで様々です。聴力を失った時期の違いでも聞こえ方や話し方に影響を受けることがあります。

- ・字幕
- ・手話
- ・補聴器
- ・メカ機能等

想像する難しさ

- ・テレビ 映画の音が聞こえない
- ・相手の声が聞こえにくい、理解しにくい
- ・名前を呼ばれたとき、説明を受けたときに分からないことがある



視覚（目）に障害がある

見え方は様々です。くは一部が見えたり、物の輪郭や色が見えたり、会話では、明るさを認識したり、明るさを感じなかったりします。

- ・点字プロック
- ・メロディ信号機
- ・白杖
- ・拡大鏡
- ・盲導犬
- ・点字
- ・読み上げソフト等

想像する難しさ

- ・信号 標識 案内掲示等自分で見て判断が難しい
- ・道路の歩く位置を把握して歩くことが難しい
- ・文字を読むことが難しい



社会モデルの視点でとらえてみよう

発達障害・知的障害

見えない障害

発達障害の特性



ADHDの主症状



体験 1

いろいろな音が気になっても、説明が分からなくなる

音を選択的に受け取ることができない  
学校場面を体験してみよう



体験 2

予定の変更や突然の事に混乱する

決まった道を通るときにこたわる。



感覚過敏

見通しが無いことへの不安を体験してみよう



体験 1

音を選択的に受け取ることができない  
学校場面を体験してみよう



## 演習 1

Bさんは、同時に物事を進めることが苦手で  
す。一つの事に集中してしまい、他の仕事を急  
進まないことがあります。「3つの仕事を急  
いで」と口頭で言われたが、それがどのくら  
いの急ぎなのか、分かりません。

あなたはどのような配慮をしますか

19

## 演習 2

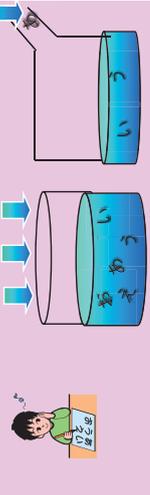
Aさんは数を正確に数える事が苦手です。間  
違うことがあるからです。10個づつ、部品  
を袋に入れての仕事を頼まれました。  
うまみょうを袋に入れて、補助具を工夫して



22

## ゆっくり成長している人 知的障害

文字や数字を覚えたり、お話をしたり  
全般に遅れがある。



20

## 知的に障害がある

IQ70以下が知的障害で、85まで  
を境界域（グレイゾーン）としてい  
ます。その認知の力には一人一人に  
大きな違いがあります。

想像する難しさ

- ・難しい内容の理解が難しい。
- ・複数の内容の理解が難しい

・軽度の人は感情面では遅れていない

21

## 障害者権利条約の批准



今、世の中は大きく  
変わろうとしています。

25

## 通常学級にいる支援が必要な子ども

知的発達に遅れはないものの、学習面  
または行動面で著し困難を示すとされ  
た生徒の割合 (H24年文科省調査より)

- ・小学校 7.7%
- ・中学校 4.0%
- ・高等学校 2.2%

23

障害についての本人のとらえも様々

障害を自分で受  
け入れ、周りに  
力ミテグアウト  
している

障害を理解  
しているが  
オナーブ  
ンしていない

障害を受け  
入れていな  
い

なぜかうまく  
いかない  
と困る

障害と自分で  
はなして理  
解している

24



この法律では、「不  
当な差別的な取り扱  
い」を禁止し、  
「合理的配慮の提  
供」を求めています。  
「合理的配慮の不提供」は、差別に当  
たります。  
自治体や公立園・学  
校では、「合理的配  
慮の提供」は、**法的  
義務**になりました。

26



・共生社会とは誰もが社会に参加・貢献でき、  
相互に尊重しあい、多様な在り方を認め合え  
る社会

全ての人が理解し合って、支えたり、支えられたりする世の中

27

## 障害のある人とボランティアの関係

### 垂直的な、上下関係 水平で、対等な関係

「for」のために」 → 「with」とともに」 → 「by」による」

28

障害とは社会や個人が作り出している

バリアを少なくするために  
自分なりにできることを  
やってみる

水平で対等な関係でありたい

「知る」きっかけとなりますように。ありがとうございます。

31

東田直樹さん

### 「自閉症のぼくがとびはねる理由」 されていいやな事は何か

僕の場合です

- ・何もわかっていないと思われ、無視されたり、僕について話したりされること。
- ・こうするが、本人のためだと勝手に思われ、意見をされること。
- ・僕がいる前で、親や兄弟が大変だという話をされること。
- ・奇声、こだわりなど、迷惑をかける行動を、僕がやりたがっていると思われること。

29



東田直樹さん

### 「自閉症のぼくがとびはねる理由」 どのような援助をしてほしいですか

僕がしてほしい援助です

- ・笑顔で接してください。
- ・分かりやすくはつきりした口調で話してください。
- ・要点を絞って、短い文章で話してください。
- ・指示をするときには、1回で一つだけにしてください。
- ・僕の言いなりにはならないでください。
- ・危ない時、悪い行動をやりそうになっているときには、そうする前に注意して止めてください。

30

### 参考文献

- 「大人の発達障害」 大田晴久
- 「僕がとびはねる理由」東田直樹
- 「脳からわかる発達障害」 鳥居深雪
- 「満足脳にしてあげればなれもが育つ」 平山諭
- 「LD・ADHD指導ガイド」 国立特殊教育総合研究所
- 「発達障害のある子のサポートブック」 学研
- 「大学生の発達障害」 講談社

32

## 娘が突然【障がい者】になっちゃった……



大川ちさとの母  
大川美紀

令和4年8月26日(木)  
高次脳機能障害 (1)

## 娘ちさとの紹介

平成10年11月20日誕生 2906g

4歳で、山に登ったり、一輪車に乗ったり、水泳大会で25m泳ぎ入賞したり、

小学校入学後は、マラソン大会でいつもメダルを取るなど、運動神経抜群



元気で、明るい、  
普通の女の子

平成27年9月 高校1年

過呼吸を起こしやすい

(意識がなくなると、病院搬送)

予測行動が苦手

(結果を考えずに行動するから、

あとで困る)

感情を抑えられない

長い時間、じっとしているのが苦痛

(授業中座っていられない、長い話が聞けない)

そこで、心療内科受診し、初めて高次脳機能障害という言葉を知る

その後、大学病院で検査し、高次脳機能障害と診断。



今日は、講座に呼んでくださって、ありがとうございます。

障がいを持つ家族の代表みたいにここにきておりますが、実は、全く講演できるような知識も、成功例もありません。

いまだに、娘のちさととは、よくぶつかり合ったり、どう接することが正解なのか、わからなかったり、反省したり、悩んだりしています。

障がいを抱えてから15年半、障がいがわかってから7年半。

障がい者と分類されている娘が、普通の人と共生するために、どんなふうに住きているか知ってもらえたら、嬉しいです。

平成18年12月 急性リンパ性白血病と診断

平成19年 1月 静脈洞血栓症 左後頭葉静脈性脳硬塞

前日から首と左眉毛の辺りが痛いと言え、当日耐えられない痛みがあり、何度も吐く。痙攣、意識なし。

翌日も意識レベル低く、注射針を刺しても動かず。

平成19年 5月 退院 その後在宅で抗がん剤治療

平成22年 4月 抗がん剤治療終了

平成27年 3月 地元の内療内科にて、高次脳機能障害と診断

平成27年 4月 弘前大学病院にて、高次脳機能障害と診断

7月 青森県の家族会に健生クリニックを紹介してもらう。

平成30年 1ヶ月に1回、弘前の健生クリニックに通院。

令和 3年 結婚。12月女児出産

今は、多様性に満ちたみんなに優しい社会を秋田県は目指していますが、以前は、ちさとのような男えない障害者の行動や性格は、ワガママ、協調性がないなど言われていたように思います。

社会から、はみ出さないよう、人に迷惑をかけないよう、みんなと同じに見えるよう、変だと思われたいよう

それを調整するのが、親の役割だと思っていました。無理やり、型にはめようとしていました。

ちさとは、私をうざいと感じていたようです。

私も常にストレスを感じ、眠さあれば、現業逃避で山に登っていました。

## 【自己紹介】

大川美紀

昭和41年8月19日生まれ

大館市生まれ大館市在住

職業 登山ガイド

ちさどが病気をしたのは、夫、長男(当時高校1年)と4人暮らし

現在は、長男も、ちさとも独立し、夫と犬と暮らしています。



脳に血液ができた24時間後意識麻痺る。

目がよく見えなく(斜視)、激しい頭痛、吐く症状あり。痛み止めが効かず、モルヒネ使用。

後藤が悪い、トイレがうまくできない、すぐ泣く、言動が幼稚化、思考力の低下、ゲームやODが欲しいと物に執着、本はすぐ読むのをやめる。読まない。音に敏感。

以前と違う人のようなと、医師に話したが、モルヒネやステロイドを使用しているためと説明され、障がいが残ったとは気が付きませんでした。



## 障がいがわかったとき

ちさとも、私も、ホッとしました。

問題行動が多いのは、ちさとの性格のせいでも、私の子育てが間違っていたせいでも、なかったんです。

障がいがあるということは、誰かに頼っても良いんだ!

公共の力を借りられるんだ!

もしかしたら、生きやすくなる方法があるかも? 心から、ホッとしました。

足が悪い人に、「みんなと同じように」走れとは、  
言わないですよね…  
手がない人に、「みんなと同じように」絵を描けとは、  
言わないですよね…  
脳の障害は、見た目では分かりません。  
普段の生活一つ一つ、「みんなと同じように」やることは、  
ともしんどいことなんです…  
それに、気がついたので、「みんなと同じように」は  
やめました。  
ちさとは、「ちさとのまま」で生きて良いことに気がつきました。

**今現在のちさと**  
精神障害 2級  
結婚前は、就労支援B型施設利用  
令和3年12月に生まれた女の子の母親をしながら、  
イベントなどでライブ活動、施設などの慰問ライブ。作詞作曲、CM  
音楽提供、出演(天気予報)  
秋田県CM、大館市ふるさとCM、肉博テーマソングなど  
高次脳機能障害の認知度を広めるための活動。多様性に満ちた  
社会づくりの活動(CM、講演)

**実際、困っていること。(本人は、あまり困っていない)**  
\* 肩や目が普通(臭えない障害)  
「サボっている。演技している。」と言われる  
\* やる気が起きない方が多い  
\* 目からだけ、耳からだけの情報が理解しづらい。(外国語のよう)  
\* 言おうとしていることを忘れる。言いながら忘れる。  
もの名前が出てこない。  
\* TPのかわきまえることが難しい。  
季節、場所、立場に合う服装、行動を理解できない。  
\* 本音と建前が理解できない。  
(なぜ、悪口を言っている人と、仲良くする??)  
\* 予測行動ができない  
(これをすると、こうなる…が理解できない)

**実際、困っていたこと(学校編)**  
(当時は、障がいがあることがわかったばかりで、  
他の人に告知していません)

- \* 1対1で会話はできるが、たくさんの方が発言すると、外国語を聞  
いているようになり、理解できない。
- \* 理解できないけれど、うなづいているから、理解できていることに気  
がついてもらえない。
- \* 本音と建前が理解できない。(なぜ、悪口を言っている人と、仲良くするか  
聞いてしまう)
- \* 相手の立場になって考えることが、苦手。
- \* 予測行動ができなかったため、失敗が多い。

**困っていたこと(仕事編)**  
\* 働きたくても、働けなかった  
知人のところで働こうとしたが、障害者だからタダ働きと言われる。  
ノウハウを教えてあげるから、賞金は払えない…と。

**困っていたこと(仕事編水増し問題前の出来事)**  
ハローワークで障害者雇用制度を利用できると教えてもらい、  
手続きに行ったところこう言われました。  
「あなたみたいな障害者を雇うところは、どこにもない、  
仮に会社を紹介しても、あなたを雇う会社はない。  
遅刻、早退しない、やれと言われたことをきちんとやる人しか、  
障害者雇用制度であつてもハローワークは、紹介できない。  
あなたは、障害者施設に行つて、  
まずは普通の生活を送ることを考えなさい。障害者雇用は無理です。  
あなたみたいな人は、音楽をしている場合でない。やめなさい」  
2人で、泣きながら、帰りました。  
※ 本人と支援者(母親)が話し合っています。



**実際、困っていたこと(学校編)**  
当時は、障がいがあることがわかったばかりで、  
他の人に告知していません

- \* 盛り上がる時、それを抑えられない。ハイテンションのまま、  
また、落ち込むと、立ち直るのが難しい
- \* 黒板の字をノートに写せない。
- \* 記憶できないから、勉強しても、すぐ忘れる。思い出せない。
- \* 人の名前を覚えておかない。
- \* やらなければならぬことを、忘れる。覚えていても、やる気が出ない
- \* 騒がしいところに、いたら情報量が多すぎて、疲労する

頼ったハローワークに、匙を投げられ、  
ちさとは、音楽の先輩が支援員をしていた  
とじよっこハウスに通いながら、音楽活動を始めまし  
た。  
作詞作曲、ライブ、CD制作、CM出演と、  
自分でできることを自分のペースで行なっています。  
あなたみたいな、障がい者は、音楽をやっている場合  
じゃないと言われた、音楽を仕事にしています。



**困っていたこと(家にいた時)**

- \* 食事に対応できない  
料理のメニューが変わると、怒って食べない。
- \* 入ったことのない店に入れない。
- \* 電話問い合わせができない、店員さんと話せない。
- \* 時間に間に合わせられない。
- \* 「適当に」だいたい「いい具合に」状況に応じて「が使えない
- \* ストレスを解消できないと、過呼吸になり、意識がなくなる、倒れる  
失声症になる。下半身に力が入らなくなり、歩けなくなる  
【解離性障害】



子供が生まれ、守るべきものができたおかげで今は、子供第一、お母さんを頑張っています。

誰も自分で望んで障がい者になつたわけじゃない。だから誰も悪くない。

でも、なつたものはしょうがない。なんで？って考えるよりしょうがない！って聞き直つた方が楽。

人生楽しんでみんな勝ち障がいも一つの個性  
十人十色  
みんなちがってみんないい

ちさと

**頑張っていること**

- \* 育児の大事なことは、全て、スマホにメモしている、ミルクを飲ませた時間、量など、全て書き込み、管理している
- \* 子供を全力で守っている
- \* 助けて欲しい時は、SOSを出している
- \* インターネットで情報を収集している、勉強している

ある日突然、娘が「障がい者」になってしまいました。一人で、抱え込むことは、本当に辛いことでした。

障がいがかわかってから、誰かを頼ってもいいって分かり、救われしました。今は、たくさんのお世話になって、娘は生活できています。

見える障がいを持つ人もいれば、見えない障がいを持つ人もいます。多様な文化や価値観を持った人もいます。

差別するのではなく、周りの人が、少し気にかけてり、理解する気持ちを持つたり、優しくするだけで、どんな人でも、生きやすい社会になっていくと思います。

**工夫していたこと**

- \* 料理をする時、適量という言葉を使わず  
砂糖大さじ1とか、にんじんを2cmの厚さに切つてとか、15分煮ると、細かくレシピを書いた。
- \* 料理以外にも、曖昧な表現でなく、具体的に伝えた。
- \* 時間は、10分前を伝えた(本人にはバテていました)
- \* 大事なことは、ラインで、文章を短く。
- \* 腰が立つたら、まずは、離れる。
- \* 否定せず、まずは、寄り添う。落ち着いているときに、母さんはこう思うよ・・・と言う。
- \* 言語療法士の先生に間に入ってもらっていた

**ちさとが支えてくださる方へお願いしていること**

- ・「普通」を考えてが通じないので、具体的に教えてほしい
- ・近くにいる存在の人ほど理解してくれてくれないと感じる
- ・どんなにすごい講演に行っても、どれだけ沢山の本を読んでも障害の知識しつかつかない。それより、自分を知ってほしい、みてほしい。
- ・支えてくださる方の意見を無理やり押し付けしないでほしい。「あれは苦手て出来ない。」そうやってできる事を決め付けないでほしい
- ・選択権を与えて欲しい。
- ・1人になりたい時に土足で自分の領域に入ってきて欲しくない。
- ・もっと強めて欲しい、普通の人が普通にできていることが、すぐたくさん努力をできていていることが多い。認めてほしい。





## ささえが出来るまで

- ・地域に暮らす障がい者とその家族が集う場所がほしいと長年願って機会あることに実現してきました。
- ・二人の当事者の保護者が主になり長年障がい者のボランティアの協力を得て、それが核となり、公民館などを転々として毎月当事者活動をしてきた。
- ・農業社協で平成15年頃、身体障がい者の生涯ニデイサービスが余暇支援として実施された。そこで、知的障がい者のサービスのサービスクラウドに中村が同行することを条件に毎月1回、一年間行ってもらい、担当者の障がい理解が広がった。
- ・1年間だけで、事業は打ち切られたが当事者から“月1回だけいいから喫茶店でコーヒーを飲みたい”と告げられ、それなら出来ると動き出したのが原点だと思う。
- ・平成19年4月から市の指定管理を受託して、在宅障がい者の居場所、相談援助、一人暮らしや就労に向けた生活支援や就労支援など行うことを目的とした「ささえ」が開所。ついに、長年の念願がかなえる事が出来た。

2



利用者代表

富樫洋和さんのあいさつをして  
当事者主役の場として

岸部市長の臨席

4

北秋田市障がい者生活支援センター

# 開所式

## 2007年4月～

3

## 「在宅障がい者こそ自己決定できない?!」

ささえを開所して分かったこと...

- ・自分が何をしたいのか何を食べたいのか選択できないことが分かった。
- ・親がかりで何もせず、何もできないからやらしてもらっていた。全て学ぶ機会を奪われてきたので何もできなかった。
- ・開所当初、“息子に包丁を持たせたことがない”“環境に慣れずてんかんの発作頻発”“お金の使い方が分からず生活が出来ない”など、ずっと何にもできない赤ちゃんな扱いをしていくことに気づいた。



時間を掛けて実体験を繰り返すことで、生活の仕方を習得してもらいしなな  
いと腹を語った。

6

## 手始めに ①調理教室



「調理教室」の活動から、毎日の「昼食づくり」となり、  
献立づくり→買い物→金銭管理へとつながっている。  
繰り返しの経験が自立生活への自信となる。

7

## ②洗濯・清掃活動・環境整備



洗濯の物干し、ただみは毎日繰り返し行う事で上達する。食器洗い、  
床拭き、玄関掃除、トイレ・洗面所掃除など皆、平等に文句なし！抽  
選して決める。時には、壊れているところの修理まで行う。

8

## ③口腔ケア



“歯医者が怖い”とか、歯磨きをした  
ことが無かった人もいた！  
歯科衛生士を招き、毎月1回行われ  
た口腔ケアは8年間行われた。

その後はささえの職員が行っているが、毎朝の歯磨き  
チェックをし、磨き方指導を続けた。結果、歯科医院に  
一人で行くようになるに、3ヶ月に1回の歯のクリーニング  
を受けられるまでに至った。

9

#### ④ 自分測定

開所したころは、法人の看護師の協力を仰ぎ月1回健康観察をしてもらった。

現在は当センター向かいにある北秋田市保健センターで「自分測定」を受けている。この「自分測定」は毎月1回、午前9時から午後6時まで地域の誰でも利用できるシステムで、測定している人のデータはセンターで保管している。

同行した職員が本人の了解のもとに保健師による専門的なアドバイスと一緒に聞く事が出来る。ダイエットが必要な方への運動不足解消として、毎日のラジオ体操を行うきっかけになり、継続して自分たちで行っている。

10

#### ⑤ パソコン教室



“パソコンを習いたい”という方に対して、講師を招いてパソコン教室を行っている。現在は突発的にお願いされたり、継続的に行う為、職員対応が多い。上達した利用者は当事者の会のお知らせを1人で作れるようになってきている。

11

#### ⑥ 手芸教室



作品は、ささえ館内にコーナーを設けて常時販売したり、イベント時の出店販売をしている。「商品価値」としての意識を講師の方から教えていただき制作意欲が向上している。

12



マスクや、コースター、ブローチなどの製作に取り組んでいる。

#### ⑦ 陶芸教室



鷹巣陶芸教室の皆さんに協力を仰ぎ、コロナ前はささえに招き、または、たかのす教室へ出向しながら交流した。それが、障害理解を深める機会にもなっている。

13

#### ささえのワークショップ



アロマセラピー



生花体験



音楽を楽しむ

14

#### 誕生会



15



#### 当事者の会 活動支援

コロナ禍での活動「折り紙コンクール」を開催し、ささえ玄關ホールにて撮影を行う。

さらにささえで「秋の芸術祭」を開催し、関係機関や地域の関係員に変化した作品を見ていただくことから、お慶の会でもおしり弁当をふるまっている。

「物づくりコンテスト」を開催し、審査員は半の金の役員「ゼンター」職員・地域の応援団、出品者全てに着がつく。

16

#### ものづくりコンテスト



自由なテーマで思い思いの作品を作り全てに賞を寄与した。

17



#### 公共交通機関を利用して.... 大館・秋田市へ



公共交通機関を使って大館や秋田市へ出かけると、大館の思い出方を遊ばせ、思い出の思い出の思い出を築き、自立力を身につける。

#### 内陸線を使って角館へ



「SDG」についての勉強会を行いながら、秋田県内へ出張旅行の一環の研修旅行

18

## 光の会2022年の活動



本館少年自然の郷(ワンパーク大館)にて一泊研修会を実施。各自の自立の方を確認



田代オートキャンプ場にて防災講座を実施



ワンパーク大館から講師派遣

19

## 2022年 新年会 「田代温泉ユツプラ」にて



コロナ禍により場所は自選したが感染症対策を徹底の上、光の会 当季卒業と新年会を行うことが出来た。



20

## カフェ活動【Sasae cafe】



生涯学習フェスタでささえcafe



おでかけの席(しゃるーむこども園)

21

## うたっこカフェ



## 温泉deカフェ & ささえcafe ～認知症cafe～



22

## 2008～余暇活動 「新春お茶会」



前日、作業を勉強しました

## みんなでカルタ作り



23

## お茶会の後は、「手作りかるた会」



昔で制作した“かるた”でのかるた大会は大いに盛り上がった。24

## ボディーパーカッション「BE AS ONE」



25

## 「心はひとつ」



27



28

### 2013年クリスマス会(公民館)



29

### 2013年1月18日 津谷市長さんと語る会



30

### 2015年「8周年記念会」(ファッションショー)



31

自分らしさ、憧れのファッション等、自分をアピールする機会となった

### 2020～余暇活動支援「なかも市」



2020年10月  
なかも市(北鷹 高校・支援学校たかのす校・ささえ)



2022年10月  
ハロウィンで仮装パーティー

32

### ボランティア活動

～100キロチャレンジマラソン大会～



アイシングコーナーを主に担当。着でランナーを穿った。



33

### ヨガ教室・体カムキムエクササイズ



34

健康維持や体質改善をテーマにそれぞれに合った体カゴづくりを奨めている。

### 雪かきががんばりマース!



35

冬期間は雪かきの経験も大きな支援となっている。

### 就労体験(木製カレンダーづくり)



36

当センター近隣の自治会による計らいで年に一度の木製カレンダーづくりにも参加している。

## 2019年「文部科学大臣表彰」

～障害者の生涯学習支援活動～



開所以来、余暇を充実させる活動が盛んになり、生涯学習活動につながる表彰を授け、さき(2007年)、その活動の再認識する機会となった。

37

## 2017年 みんなの未来予想図



みんなの思いを一つに、叶えたい未来の北秋田市を大きな地図紙に描いた。

38

## 2022年 生涯学習フェスタ



今年はお祭りのカフェと販売、展示のほかステージ発表も行った。そこで、秋田井のラジオ体操、秋田県出身の助手高橋の「秋田の行事」に合わせ踊り、思い思いのコスチュームで身をまわした。

39

## ～おまけ～



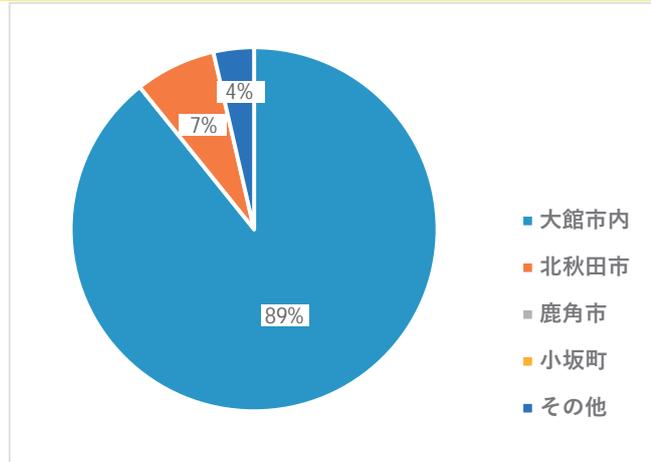
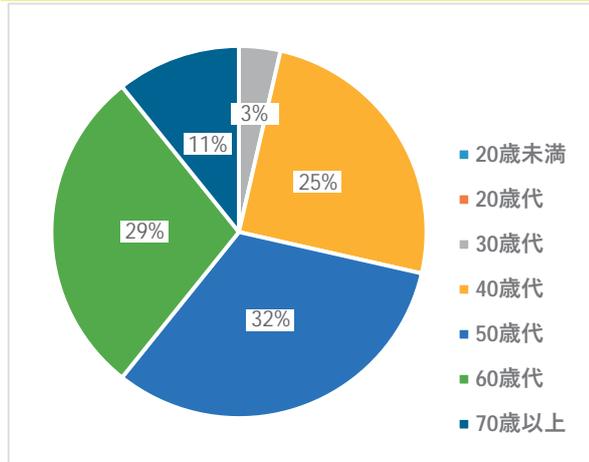
生涯学習フェスタ当日のステージ発表に向け、当センターで何度も練習を行った。

40

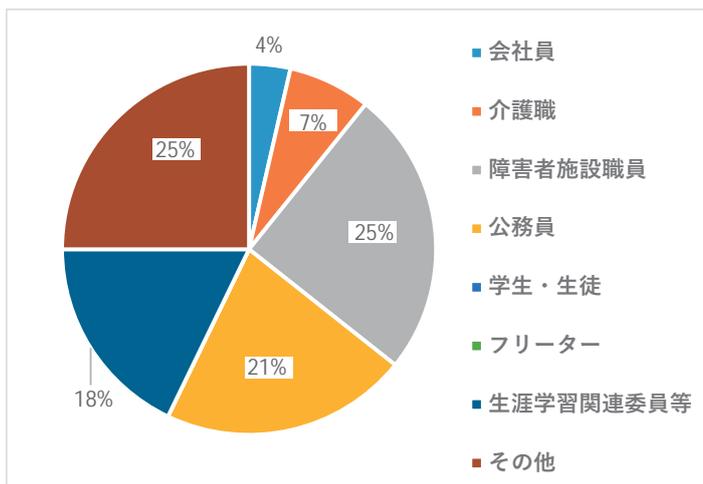
## 1月7日（土）ボランティア養成講座（3）アンケート集計結果

Q 1 ①あなたの年齢を教えてください。

Q 1 ②お住まいはどちらですか。



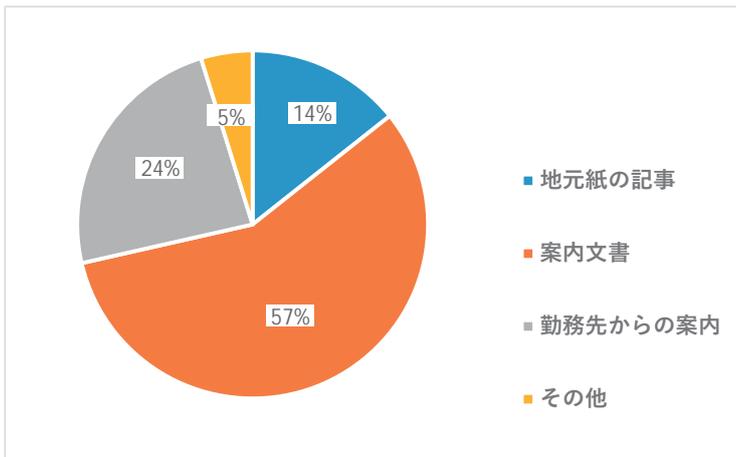
Q 1 ③職業を教えてください。



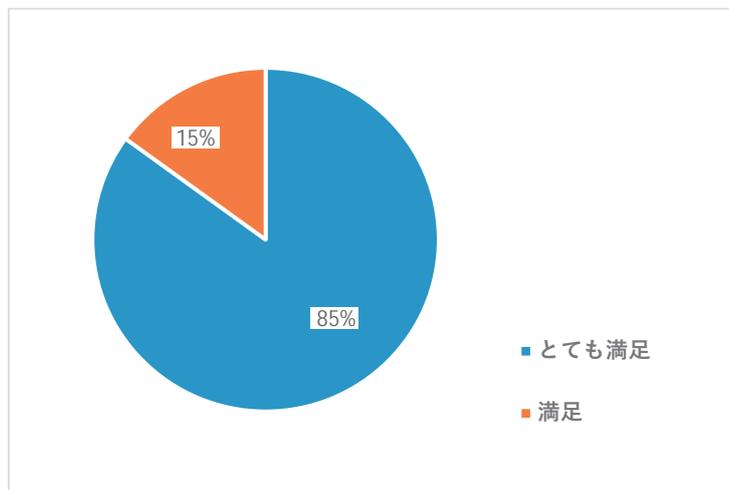
Q2 今回の講座へ参加しようと思ったのはなぜですか。（複数回答可）

○ 障がい者の生涯学習に興味があったから	15
○ 障がい者の有無に関わらず、共に生きる「共生社会」を考えてみたかったから	12
○ 「ささえ」の活動を知りたかったから	13
○ 生涯学習関連委員として、障がい者の生涯学習を支えるとはどういうことなのか、考えてみたかったから	7
○ その他（記述）	
・ 仕事で障がい者の方と接する機会が増えたので参考にしたいと思ったから	
・ 自分に何が必要なのかを考えてみたかった	
・ 自分が苦手と思っていた分野を深く知ろうと思ったから。	

**Q3 今回の講座を知ったきっかけを教えてください。**



**Q4 今回の講座は、満足しましたか。**



**Q5 どんところが満足だったか（記述式）**

- ・ 利用者さんの声が活動になっていく過程がわかった。活動を通して、利用者さんの意見が実現していくことに感動した。
- ・ 生き生きと分け隔てなく活動している「ささえ」の皆さんに感動した。これまでの歩みをさりげなく語られるお二人の姿に感銘を受けました。障がいのある方々から、むしろ我々が学ぶ事の多い現代社会であることを今回の講座から強く感じました。より多くの方に伝え、知ってほしいと切に思います。
- ・ 障がいを持つ方とのかかわり方を学ぶことができた。在宅の方が外に出たがらない理由がわかったような気がします。また参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・ 話が分かりやすかった。楽しんでいるのがわかった。
- ・ 大変参考になりました。トイレの提案、ぜひ実行されるといいと思います。県民みんなで考えることなのかもしれないなとも思います。

- ・ 自立することが一番難しく大切だと感じ、これからの仕事、生活に活かしていきたいと思いました。
- ・ 中村さんお話がとてもよかった。温かい人柄だと思った。「月に1回、喫茶店でコーヒーが飲みたい」という一言から「ささえ」が始まった事がわかりました。庄司さんの話し方もわかりやすくよかった。
- ・ ささえの当事者に寄りそった色々な活動に感激しました。大館にも「サロン」ができて頑張ってくださいっていますが、利用者の親としてもできる事があればお手伝いして、障がい者がどんどん利用できる場所になればいいなあと思います。
- ・ 障害の有無に関わらず、居場所があるのはとてもありがたいことです。開所から日常の生活指導、様々なイベントまでいろいろ企画して実行されている中村さん、庄司さんのご努力は素晴らしいと思いました。乳幼児からの生活習慣のお話がありました。特別支援教育に関わる者ととてもよいお話を聞くことができました。ささえのような余暇活動が大館市でもできればよいと強く感じました。
- ・ 自立することの必要も伝えている。（お金の使い方、公共施設の利用も仕方等）。障がい者が自分からもやりたいと動く気持ち、行動を応援することに時間をかけて、周りが穏やかに対応している。一緒の時間を過ごす中で意見を聞きながら行っている。自信をもって行動する喜びも教えている。
- ・ 生活に密着した活動支援により、社会参加につなげる活動を続けていることがためになった。大館でどういう事ができるか考えてみたい。

#### Q6 さらに講座を充実させるために、ご意見がありましたら、お願いします。

- ・ 質疑応答を充実させたらいいのではないかな？例えば、質問したい内容を事前に提出してもらい、それに回答する形式などを検討するなど。
- ・ 実地体験、当事者との交流の場への参加。
- ・ 誰でも気軽に使えるトイレを考える会を開いてほしいです。

#### その他ご意見（ささえの活動への感想や講座に参加しての感想）

- ・ 「やさしい言葉は心にこだまする」と言った人がいました。できることを分かち合い、できないことを自然にフォローできたらいいなあと思います。
- ・ 人の育て方が上手だと思った。苦手なこと（人）があったら、まずは知ろうと思った。そして挑戦してみようと思った。
- ・ 2017年「みんなの未来予想図」に各地域にささえがあればいいなあという願いが込められている。ささえの活動が当事者の方々の生きる喜びとなり、心地よい居場所になってことが素晴らしいと思いました。共生社会、誰もが住みやすい社会、互いに認め支えあえる社会。まずは困っている様子を見かけたら、「お手伝いさせてください。」と声をかけるところからやってみようと思いました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 50年前「青い芝の会」の皆さんと出会いました。当時「共生」という概念は明確になっておらず、社会的に受け入れられませんでした。50年という時が経ってもあえて「共生」を叫ぶことが必要な現実に失望しています。

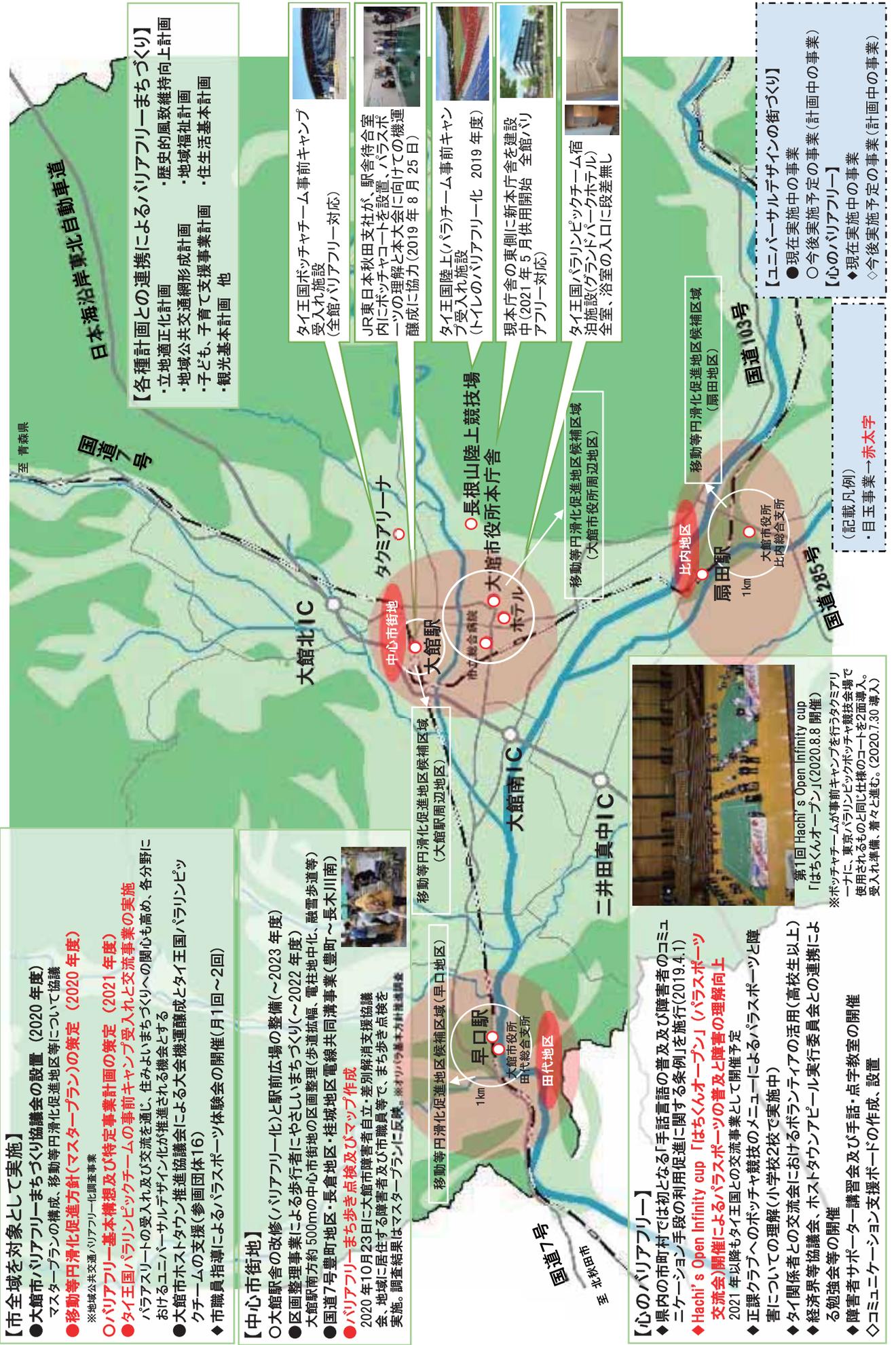
# 大館市先導的共生社会ホストタウン関連事業

## 【市全域を対象として実施】

- 大館市バリアフリーまちづくり協議会の設置 (2020年度)  
マスタープランの構成、移動等円滑化促進地区等について協議
- 移動等円滑化促進方針(マスタープラン)の策定 (2020年度)  
※地域公共交通/バリアフリー化調査事業
- バリアフリー基本構想及び特定事業計画の策定 (2021年度)
- タイ王国パラリンピックチームの事前キャンプ受入れと交流事業の実施  
パラアスリートの受入れ及び交流を通じ、住みよいまちづくりへの関心も高め、各分野におけるユニバーサルデザイン化が推進される機会とする
- 大館市ホストタウン推進協議会による大会機運醸成とタイ王国パラリンピックチームの支援(参画団体16)
- ◆市職員指導によるパラスポーツ体験会の開催(月1回~2回)

## 【中心市街地】

- 大館駅舎の改修(バリアフリー化)と駅前広場の整備(~2023年度)
- 区画整理事業による歩行者にやさしいまちづくり(~2022年度)  
大館駅南方約500mの中心市街地の区画整理(歩道拡幅、電柱地中化、融雪歩道等)
- 国道7号豊町地区・長倉地区・桂城地区電線共同溝事業(豊町~長木川南)
- バリアフリーまち歩き点検及びマップ作成  
2020年10月23日に大館市障害者自立・差別解消支援協議会、地域に居住する障害者及び市職員等で、まち歩き点検を実施。調査結果はマスタープランに反映。※オリパ(障害者基本方針推進調査)



【各種計画との連携によるバリアフリーまちづくり】

- ・立地適正化計画
- ・地域公共交通網形成計画
- ・子ども、子育て支援事業計画
- ・観光基本計画 他
- ・歴史的風致維持向上計画
- ・地域福祉計画
- ・住生活基本計画

タイ王国ポッチャチーム事前キャンプ受入れ施設 (全館バリアフリー対応)

JR東日本秋田支社が、駅舎待合室内にポッチャコートを設置、パラスポーツの理解と本大会に向けての機運醸成に協力(2019年8月25日)

タイ王国陸上(パラ)チーム事前キャンプ受入れ施設 (トイレのバリアフリー化 2019年度)

現本庁舎の東側に新本庁舎を建設中(2021年5月供用開始 全館バリアフリー対応)

タイ王国パラリンピックチーム宿泊施設(グランドパークホテル)全室、浴室の入口に段差無し

- 【ユニバーサルデザインの街づくり】
- 現在実施中の事業
  - 今後実施予定の事業(計画中の事業)
- 【心のバリアフリー】
- ◆現在実施中の事業
  - ◇今後実施予定の事業(計画中の事業)



第1回 Hachi's Open Infinity cup 「はちくんオープン」(2020.8.8開催)  
※ポッチャチームが事前キャンプを行うタクミアリーナにて、東京パラリンピックポッチャ競技会場で使用されるものと同じ仕様のコート各2面導入。受入れ準備、着々と進む。(2020.7.30導入)

- 【心のバリアフリー】
- ◆県内の市町村では初となる「手話言語の普及及び障害者のコミュニケーション手段の利用促進に関する条例」を施行(2019.4.1)
  - ◆Hachi's Open Infinity cup 「はちくんオープン」(パラスポーツ交流会)開催によるパラスポーツの普及と障害の理解向上  
2021年以降もタイ王国との交流事業として開催予定
  - ◆正課クラブへのポッチャ競技のメニューによるパラスポーツと障害についての理解(小学校2校で実施中)
  - ◆タイ関係者との交流会におけるボランティアの活用(高校生以上)
  - ◆経済界等協議会、ホストタウンアピール実行委員会との連携による勉強会等の開催
  - ◆障害者サポーター講習会及び手話・点字教室の開催
  - ◇コミュニケーション支援ボードの作成、設置

# 第7次大館市社会教育中期計画

(令和2年度～令和5年度)

まちや暮らしのなかで市民が活躍し  
次代を育む“教育文化都市”



ふるさとに誇りを持ち  
共に学び合いが  
できるまち

郷土の誇りを  
守り伝えるまち

自分をまちづくりに生かし  
つながりをつくることが  
できるまち

誰もがどこでも  
生涯を通じて  
共に学び合うまち

## 重点施策

### ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習社会

ふるさとに誇りを持ち  
共に学び合いが  
できるまち

高校生ボランティアグループの育成

高校生まちづくり会議「HACHI」

子育て講座の充実

親育で、添育で講座

市民版ふるさとキャリア教育、学習の充実

市民による地元企業の学習

子どもたちの教育活動、歴史の学び

大館版「リカレント教育」の構築

検討委員会の立ち上げ

各種講座の充実

各種団体の検討

学校図書館への支援

飛び出す図書館司書

人財名簿、達人講座の活用

各種講座の開催

高齢者のための

地域コミュニティ事業の充実

高齢者事業の拠点づくり

公民館事業の充実

老社大学

わんぱくスクール

地区公民館の活性化

まちや暮らしの中で  
市民が活躍し  
次代を育む  
教育文化都市

郷土芸能、芸術文化に  
関する公民館・学校等との  
連携事業の推進

芸術文化交流、体験事業

地域の歴史保全の充実

歴史まちづくり事業

郷土の誇りを守り  
伝えるまち

障がい者のための  
生涯学習の推進

軽スポーツ交流会

防災学習会

ものづくり体験

障がい者施設との連携

共生社会の学習の充実

多様性の理解

誰もがどこでも生涯を通じて  
共に学び合うまち

## 生涯学習の情報プラットフォームの構築(生涯学習課)

大館ふるさとキャリア教育  
(おおだて型学力)

市民によるボランティア活動  
(民間の活動)

各種学習活動  
(自主サークル)

令和4年度 大館市生涯学習連携協議会 委員名簿

No.	職	機関・団体名等	氏名
1	会長	秋田県教育庁北教育事務所 指導・社会教育班	櫻庭 直
2	副会長	社会福祉法人大館市社会福祉協議会	仲谷 正一
3	委員	秋田県立比内支援学校	鎌田 裕之
4	委員	秋田県立大館鳳鳴高等学校	澤口 栄一
5	委員	秋田県立大館桂桜高等学校	今川 拓
6	委員	秋田県立大館国際情報学院高等学校	村上 清秀
7	委員	秋田県立大館少年自然の家	佐々木 長則
8	委員	一般財団法人大館市文教振興事業団 栗盛記念図書館	坂上 隆義
9	委員	社会福祉法人大館圏域ふくし会 白沢通園センター	庄司 馨
10	委員	大館市身体障害者協会連合会	畠山 安彦
11	委員	大館市手をつなぐ育成会	麓 幸子
12	委員	NPO法人共生センター とっと工房 前田野事業所	菊地 俊策
13	委員	NPO法人ハートランドひまわり	堀口 忠彦
14	委員	NPO法人工房JOYさあくる	鈴木 千里
15	委員	就労継続支援事業所 パッソ ア パッソ	菊池 圭子
16	委員	一般財団法人大館市スポーツ協会	青柳 正隆
17	委員	大館市福祉部福祉課	丸屋 千幸
18	委員	大館市観光交流スポーツ部 スポーツ振興課	佐藤 税
19	委員	スポーツコミッション大館	田村 哲也
	コーディネーター	比内支援学校 特別支援教育アドバイザー	佐藤 正好
	連携施設職員	中央公民館 館長	武田 吉輝
		中央公民館 係長	佐藤 正平
		中央公民館 主任	一関 留美子
		比内公民館 係長	嶋田 昌歌

事務局	生涯学習課 課長	糸屋 みさえ
	生涯学習課 課長補佐	鈴木 明
	生涯学習課 係長	羽沢 秀則
	生涯学習課 主事	小林 舞花
	生涯学習課 主事	山田 拓海

## 大館市生涯学習連携協議会設置要綱

### (設置)

第1条 第7次大館市社会教育中期計画（令和2年度～5年度）の重点施策では、障害者のための生涯学習の推進及び共生社会の学習の充実を掲げている。また、本市は令和2年12月25日先導的共生社会ホストタウンの認定を受け、共生社会の実現に向け、全市を挙げての横断的な取組を行っている。

それらを受けて、学校卒業後における障害者の生涯学習の機会の充実を図るため、大館市生涯学習連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

### (業務)

第2条 協議会は、次の職務を行う。

- (1) 障害者のための生涯学習の推進のために必要な調査及び分析
- (2) (1)に基づいた、講座等の計画策定及び実施
- (3) 障害者の生涯学習への支援者及び理解者の育成
- (4) 持続可能な活動の実践研究に関すること
- (5) その他障害者の生涯学習に関すること

### (組織)

第3条 協議会は、次に掲げる各種機関・団体の代表者及び有識者（以下「委員」という。）をもって構成する。

- (1) 福祉部福祉課
- (2) 観光交流スポーツ部スポーツ振興課
- (3) 秋田県教育庁北教育事務所
- (4) 秋田県立比内支援学校
- (5) 秋田県立大館鳳鳴高等学校
- (6) 秋田県立大館桂桜高等学校
- (7) 秋田県立大館国際情報学院高等学校
- (8) 秋田県立大館少年自然の家
- (9) 大館市立図書館
- (10) 大館市社会福祉協議会
- (11) 大館圏域ふくし会
- (12) 大館市身体障害者協会連合会
- (13) 大館市手をつなぐ育成会
- (14) NPO法人共生センターとっと工房
- (15) NPO法人ハートランドひまわり
- (16) NPO法人工房JOYさあくる

- (17) 就労継続支援事業所パッソ ア パッソ
- (18) 大館市体育協会
- (19) スポーツコミッション大館

(任期)

第4条 委員の任期は、当該年度末までとする。ただし、欠員が生じた場合、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任を妨げないものとする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長1名、副会長1名を置き、委員の互選により決定する。

2 会長は協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の開催は、会長が招集し、会長が議長となる。ただし、最初の協議会は、教育長が招集する。

2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ、開くことができない。

3 委員は、やむを得ない事情により協議会に出席できないときは、代理者を出席させることができる。

4 会長は、必要に応じて会員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(謝金)

第7条 協議会に出席した委員について、謝金を支払う。謝金は、日額により7,000円を支払う。

2 前条第3項の規定に基づき、代理者が協議会に出席したときは、代理者に対して、謝金を支払う。

(コーディネーターの設置)

第8条 協議会にコーディネーターを置く。

2 コーディネーターは、協議会の業務実施について、必要な助言を行う。

3 コーディネーターの任期は、委員と同様の期間とする。ただし、欠員が生じた場合、補欠のコーディネーターの任期は、前任者の残任期間とする。

4 コーディネーターが協議会に出席したときは、謝金を支払う。

5 コーディネーターは、再任を妨げない。

(事務局)

第9条 協議会の事務局は、教育委員会生涯学習課に置く。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか協議会の運営に必要な事項は別に定める。

附則

この要綱は、令和3年6月25日から施行する。

附則

この要綱は、令和4年6月24日から施行する。

## 編集後記

文部科学省から委託を受け、2年目の事業を展開いたしました。準備不足や新型コロナウイルス感染拡大局面では、開催方法の変更や延期等を余儀なくされながら、生涯学習講座等を実施し、また連携協議会委員のご意見やコーディネーターの助言をいただきながら、何とか実施報告書をまとめることができました。

今年度の成果の1つに、連携協議会委員に講座見学や参加をしていただくことができたことがあります。それにより、協力や連携が強くなり、来年度事業（案）作成への準備が揃いました。

連携の輪をさらに広げ、障がいのある方との交流を促進し、生涯学習の機会促進に微力ながら、尽力していきたいと存じます。

発刊にあたり、たくさんのご協力をいただきましたことを、深く感謝いたします。

文部科学省委託事業  
令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する  
実践研究事業」  
大館市「障害者の生涯学習」推進事業 事業報告書

令和5（2023）年3月

編集・発行

**大館市教育委員会生涯学習課**

〒018-3595 秋田県大館市早口字上野43番地1

TEL：0186-43-7113

FAX：0186-54-6100

E-mail：gakusyu@city.odate.lg.jp

